

災害への備えと食に関する調査

報告書

2024年4月

目次

■調査企画	1
■調査結果の内容	7

I 全国の3500名の男女に聞く災害への備えに対する意識と実態

1. 同居家族人数	9
-----------	---

「2人」(31.8%)が最も多く、以下「3人」(24.1%)、「4人」(18.6%)、「1人(単身)」(17.7%)などの順で、8割強(82.3%)は“同居あり”。

2. 災害が発生した際の避難場所を知っているか	10
-------------------------	----

「場所はわかっているが行ったことはない」が半数近く(48.3%)を占め、「チェックしに行ったことがある」(26.1%)と「知らない」(25.6%)はともに4人に1人程度。

3. 災害時に避難する際の防災グッズを準備しているか	12
----------------------------	----

“準備している”(40.2%)よりも“準備していない”(59.8%)の方が多い。

●“準備している”割合は、年代が上がるほど高い。

4. 災害に備えた食料品の備蓄をしているか	14
-----------------------	----

「備蓄しているが十分ではない」が半数を超えており(55.2%)、そのほかでは「備蓄していない」(37.4%)が多く、「十分備蓄している」はごくわずか(7.3%)。

●“備蓄している”の割合は年代が上がるほど高い。

4-1. どのような食料品を備蓄しているか	16
-----------------------	----

「飲料水」が最も多く(79.4%)、以下「レトルト食品」(63.4%)、「缶詰」(58.4%)、「賞味(消費)期限の長い災害用の非常食」(49.3%)、「主食(ごはんやパンなど)」(44.1%)、「菓子類」(38.4%)などが備蓄されている。

●性別では《男性》よりも《女性》の方が、年代別では年代が上がるほど全般に高い傾向。

4-2. 十分備蓄できていない、または備蓄していない理由	17
------------------------------	----

「経済的余裕がないから」(28.4%)、「備蓄する場所がないから」(27.7%)、「何を買っていいかわからないから」(27.3%)、「備蓄品が無駄になるのが嫌だから」(23.3%)、「災害の少ない地域に住んでいるから」(13.1%)といった理由で備蓄できていない。

5. 災害用に備蓄していた食料品を食べたことはあるか	18
----------------------------	----

「災害時に食べたことがある」がごくわずか(6.6%)にいたが、そのほかでは「日常生活で食べたことがある」(56.0%)の方が、「食べたことはない」(40.2%)よりも多い。

●地域別では、《東北》で「災害時に食べたことがある」(18.4%)が多いのが目立つ。

6. 自宅内にある食料品で、家族全員が何日くらい過ごせると思うか 20

「2~3 日程度」(43.5%)が最も多く、以下「4~5 日程度」(20.8%)、「1 週間程度」(19.0%)などの順で、平均は「5.3 日」。

7. 普段、食事を残すことはあるか 21

“残すことがある”は2割程度(20.6%)で、「残すことはない」(79.4%)が多数を占める。

8. 食事を残すことについて、どう感じているか 22

「もったいない」(85.5%)、「作ってくれた人に悪い」(46.5%)と、残すことについて“罪悪感がある”意見が多いが、「食べきれないときは仕方がない」(25.8%)、「健康上の理由で食事制限があるときは仕方がない」(19.8%)など、“やむを得ない”という意見も少なくない。

9. 災害用の非常食についての考え 23

【4】日常食べる食料品に比べて、かさばらず持ち運びしやすいは“そう思う”が半数近く(49.5%)に達し、【1】日常食べる食料品に比べて、味は遜色ない水準だも“そう思う”(40.2%)が多いが、【3】日常食べる食料品に比べて、1商品あたりの量がちょうどいいについては“そう思う”(29.8%)と“そう思わない”(26.1%)がほぼ同数、【2】日常食べる食料品に比べて、価格は手ごろなものが多いについては、“そう思う”(23.3%)よりも“そう思わない”(46.8%)の方がはるかに多い。

II 【災害用に備蓄している食料品】と【日常で食べる食料品】に関する意識と実態

1. 災害用に備蓄している食料品や日常で食べる食料品の賞味(消費)期限を把握しているか 28

1) 災害用に備蓄している食料品の賞味(消費)期限を把握しているか 28

“把握している”が半数を超え(57.1%)、“把握していない”は2割程度(22.5%)にとどまる。

2) 日常で食べる食料品の賞味(消費)期限を把握しているか 30

“把握している”が6割を超える(64.1%)。

2. 災害用に備蓄している食料品や日常で食べる食料品の賞味(消費)期限が過ぎたことはあるか 31

1) 災害用に備蓄している食料品の賞味(消費)期限が過ぎたことはあるか 31

“ある”が6割を超える(64.9%)。

2) 日常で食べる食料品の賞味(消費)期限が過ぎたことはあるか 32

“ある”の割合は6割台(66.1%)。

3. 1年間でどのくらい、賞味(消費)期限が過ぎてしまった食料品があるか 33

1) 災害用に備蓄している食料品で賞味(消費)期限が過ぎてしまったもの 33

「5品未満」が圧倒的に多く(69.4%)、次いで「5~10品未満」(21.6%)。平均は年に「4.8品」。

2) 日常で食べる食料品で賞味(消費)期限が過ぎてしまったもの 34

「5品未満」がやはり多いが(45.9%)、【1】災害用に備蓄している食料品】の同選択肢(69.4%)に比べると低い。以下、「5~10品未満」(25.9%)、「10~15品未満」(10.1%)などの順で、平均「9.2品」。

4. 賞味（消費）期限が過ぎた食料品は主にどうするか..... 35
1) 災害用に備蓄している食料品で賞味（消費）期限が過ぎたものは主にどうするか..... 35

「多少の期限切れなら食べる」(76.9%)が多数を占め、そのほかでは「大幅に期限が切れても食べる」(18.1%)が主で、「廃棄する」という回答はわずか(5.0%)。

- 2) 日常で食べる食料品で賞味（消費）期限が過ぎたものは主にどうするか..... 36

「多少の期限切れなら食べる」がさらに多い(82.4%)。

Ⅲ ローリングストックに対する意識と実態

1. 「ローリングストック」という考え方を知っているか..... 37

“知っている”のは4割強(42.0%)で、「知らない」(58.0%)人の方が多い。

2. 自分は「ローリングストック」ができていると思うか..... 39

“できている”(36.1%)よりも“できていない”(41.5%)の方がやや多い。

●《男性》(31.0%)よりも《女性》(41.3%)の方が“できている”と回答する人が多い。

3. どのような食料品を「ローリングストック」しているか..... 41

「レトルト食品」が最も多く(70.2%)、以下「缶詰」(60.6%)、「飲料水」(58.7%)、「主食(ごはんやパンなど)」(51.5%)、「菓子類」(45.3%)、「生鮮食品」(27.4%)、「飲料水以外の飲み物」(23.0%)などを「ローリングストック」している。

4. 今後、「ローリングストック」をしたいと思うか..... 42

“したい”という回答がほぼ7割(69.1%)。

●“したい”の割合は《男性》(62.4%)よりも《女性》(75.8%)の方が高い。

5. 「ローリングストック」についての考えについて、あてはまるもの..... 44

“そう思う”割合は、【1】備蓄品の食品ロスを減らすのに有効だ(74.1%)、【2】非常食を買うより楽だ(68.0%)、【3】知らない間に備蓄品の賞味(消費)期限を過ぎることを減らせる(73.4%)、【4】災害時への備えに繋がる(76.4%)といった肯定的な考え方の項目は7割前後と高いが、【5】場所を取るので実践しにくい(41.5%)、【6】何を備蓄してよいかわからない(47.1%)の2項目は4割台、【7】手間がかかるので実践しにくいでは3割台(30.4%)で、否定的な考え方の項目の同意率は低い。

調査企画

1. 調査目的

この調査は、近年頻発している災害に対して、日本人がどのような対策をしているか、また食料品備蓄に対し、どのように対応し、どのような意識を持っているかなどを明らかにすることを目的に実施しました。

2. 調査対象

全国の20歳以上の男女

3. 調査方法

Web ページを用いたインターネット法

4. 調査期間

2024年3月18日（月）～3月20日（水）

5. 標本構成

有効回収 3500 人の標本構成は以下の通りです（上段：サンプル数、下段：構成比 %）。

F1. 性別

	サンプル数	男性	女性
	3500	1742	1758
	100.0	49.8	50.2

F2. 年齢

	サンプル数	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80～89歳	平均（歳）
全体	3500	532	627	820	756	519	222	24	47.0
	100	15.2	17.9	23.4	21.6	14.8	6.3	0.7	
男性	1742	271	316	412	373	248	109	13	47.0
	100	15.6	18.1	23.7	21.4	14.2	6.3	0.7	
女性	1758	261	311	408	383	271	113	11	47.1
	100	14.8	17.7	23.2	21.8	15.4	6.4	0.6	

F3. 地域

	サンプル数	北海道	東北地方	関東地方	中部地方	近畿地方	中国地方	四国地方	九州地方
全体	3500 100	500 14.3	500 14.3	500 14.3	500 14.3	500 14.3	331 9.5	169 4.8	500 14.3
男性	1742 100	244 14	251 14.4	255 14.6	254 14.6	245 14.1	170 9.8	79 4.5	244 14
女性	1758 100	256 14.6	249 14.2	245 13.9	246 14	255 14.5	161 9.2	90 5.1	256 14.6

F4. 未既婚

	サンプル数	未婚	既婚
全体	3500 100	1365 39	2135 61
男性	1742 100	723 41.5	1019 58.5
女性	1758 100	642 36.5	1116 63.5

F5. 子どもの有無

	サンプル数	子供なし	子供あり
全体	3500 100	1546 44.2	1954 55.8
男性	1742 100	833 47.8	909 52.2
女性	1758 100	713 40.6	1045 59.4

F6-1. 世帯年収

	サンプル数	200万未満	200～400万未満	400～600万未満	600～800万未満	800～1000万未満	1000～1200万未満	1200～1500万未満	1500～2000万未満	2000万円以上	わからない	無回答
全体	3500 100	276 7.9	681 19.5	679 19.4	490 14	287 8.2	106 3	58 1.7	26 0.7	14 0.4	449 12.8	434 12.4
男性	1742 100	125 7.2	346 19.9	388 22.3	270 15.5	165 9.5	61 3.5	40 2.3	17 1	11 0.6	178 10.2	141 8.1
女性	1758 100	151 8.6	335 19.1	291 16.6	220 12.5	122 6.9	45 2.6	18 1	9 0.5	3 0.2	271 15.4	293 16.7

F6-2. 個人年収

	サンプル数	200万未満	200～400万未満	400～600万未満	600～800万未満	800～1000万未満	1000～1200万未満	1200～1500万未満	1500～2000万未満	2000万円以上	わからない	無回答
全体	3500 100	1153 32.9	799 22.8	525 15	192 5.5	71 2	27 0.8	15 0.4	5 0.1	5 0.1	277 7.9	431 12.3
男性	1742 100	280 16.1	480 27.6	434 24.9	181 10.4	67 3.8	27 1.5	15 0.9	5 0.3	5 0.3	104 6	144 8.3
女性	1758 100	873 49.7	319 18.1	91 5.2	11 0.6	4 0.2	- -	- -	- -	- -	173 9.8	287 16.3

F7. 職業

	サンプル数	公務員	経営者・役員	会社員(事務系)	会社員(技術系)	会社員(その他)	自営業	自由業	専業主婦(主夫)	パート・アルバイト	学生	その他	無職
全体	3500 100	168 4.8	40 1.1	439 12.5	437 12.5	593 16.9	146 4.2	60 1.7	531 15.2	564 16.1	84 2.4	94 2.7	344 9.8
男性	1742 100	120 6.9	36 2.1	201 11.5	364 20.9	416 23.9	103 5.9	42 2.4	17 1	120 6.9	43 2.5	55 3.2	225 12.9
女性	1758 100	48 2.7	4 0.2	238 13.5	73 4.2	177 10.1	43 2.4	18 1	514 29.2	444 25.3	41 2.3	39 2.2	119 6.8

※本調査に記載の数値は、小数第2位以下を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

回収数を地域別にみると、「北海道」「東北地方」「関東地方」「中部地方」「近畿地方」「九州地方」の各地方が500人、「中国地方」が331人、「四国地方」が169人ですが、回答者の性・年代・地域のデータを実際の人口構成比に合わせてデータに重み付けをするウエイトバック集計を行い、補正後の結果を掲載しています。なお、今回の調査実施年は令和5年度なので、人口構成比は令和2年度の国勢調査の年齢を3年ずらして算出しています。

<ウエイトバック済みの標本構成>

F1. 性別

	男性	女性
3500	1761	1739
100.0	50.3	49.7

F2. 年齢

	サンプル数	20～ 29歳	30～ 39歳	40～ 49歳	50～ 59歳	60～ 69歳	70～ 79歳	80～ 89歳	平均 (歳)
全体	3500 100	559 16	615 17.6	785 22.4	838 23.9	468 13.4	205 5.9	31 0.9	46.8
男性	1761 100	285 16.2	313 17.7	397 22.5	420 23.8	233 13.2	99 5.6	15 0.8	46.9
女性	1739 100	274 15.8	302 17.4	388 22.3	418 24	235 13.5	106 6.1	16 0.9	46.8

F3. 地域

	サンプル数	北海道	東北 地方	関東 地方	中部 地方	近畿 地方	中国 地方	四国 地方	九州 地方
全体	3500 100.0	143 4.1	232 6.6	1267 36.2	628 17.9	565 16.1	189 5.4	97 2.8	379 10.8
男性	1761 100.0	70 4.0	117 6.7	647 36.8	321 18.2	277 15.8	98 5.5	45 2.6	185 10.5
女性	1739 100.0	73 4.2	115 6.6	620 35.6	307 17.7	288 16.5	92 5.3	52 3.0	194 11.2

F4. 未婚

	サンプル数	未婚	既婚
全体	3500 100.0	1420 40.6	2080 59.4
男性	1761 100.0	767 43.6	993 56.4
女性	1739 100.0	653 37.6	1086 62.4

F5. 子どもの有無

	サンプル数	子供なし	子供あり
全体	3500 100.0	1634 46.7	1866 53.3
男性	1761 100.0	896 50.9	865 49.1
女性	1739 100.0	738 42.4	1001 57.6

F6-1. 世帯年収

	サンプル数	200万未満	200～400万未満	400～600万未満	600～800万未満	800～1000万未満	1000～1200万未満	1200～1500万未満	1500～2000万未満	2000万円以上	わからない	無回答
全体	3500 100.0	259 7.4	628 17.9	662 18.9	492 14.1	322 9.2	127 3.6	76 2.2	30 0.9	15 0.4	445 12.7	443 12.7
男性	1761 100.0	127 7.2	334 19.0	375 21.3	266 15.1	180 10.2	71 4.0	49 2.8	21 1.2	11 0.6	185 10.5	142 8.1
女性	1739 100.0	133 7.6	294 16.9	288 16.5	226 13.0	141 8.1	56 3.2	27 1.5	9 0.5	4 0.2	260 15.0	301 17.3

F6-2. 個人年収

	サンプル数	200万未満	200～400万未満	400～600万未満	600～800万未満	800～1000万未満	1000～1200万未満	1200～1500万未満	1500～2000万未満	2000万円以上	わからない	無回答
全体	3500 100.0	1123 32.1	793 22.7	542 15.5	207 5.9	79 2.3	31 0.9	19 0.5	4 0.1	3 0.1	267 7.6	433 12.4
男性	1761 100.0	283 16.0	470 26.7	437 24.8	193 11.0	73 4.1	31 1.7	19 1.1	4 0.2	3 0.2	104 5.9	144 8.2
女性	1739 100.0	840 48.3	322 18.5	105 6.1	13 0.8	6 0.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	163 9.4	289 16.6

F7. 職業

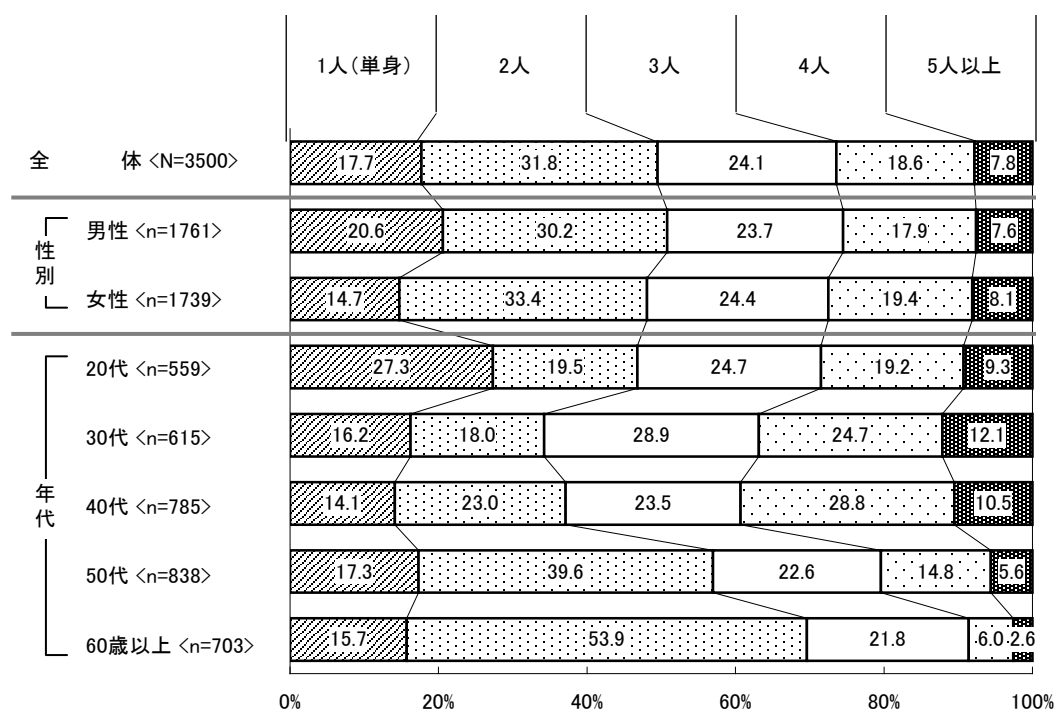
	サンプル数	公務員	経営者・役員	会社員(事務系)	会社員(技術系)	会社員(その他)	自営業	自由業	専業主婦(主夫)	パート・アルバイト	学生	その他	無職
全体	3500 100.0	133 3.8	31 0.9	483 13.8	463 13.2	567 16.2	142 4.1	79 2.3	516 14.7	559 16.0	89 2.5	95 2.7	343 9.8
男性	1761 100.0	93 5.3	28 1.6	238 13.5	388 22.0	397 22.6	105 6.0	52 3.0	21 1.2	114 6.5	46 2.6	54 3.1	224 12.7
女性	1739 100.0	41 2.3	3 0.2	245 14.1	75 4.3	170 9.8	37 2.1	26 1.5	495 28.4	445 25.6	42 2.4	41 2.3	119 6.8

調査結果の内容

1. 同居家族人数

「2人」(31.8%)が最も多く、以下「3人」(24.1%)、「4人」(18.6%)、「1人(単身)」(17.7%)などの順で、8割強(82.3%)は“同居あり”。

図 1. 同居家族人数



現在の同居家族人数は、「2人」が3割強(31.8%)で最も多く、以下「3人」(24.1%)、「4人」(18.6%)、「1人(単身)」(17.7%)などの順となっています。なお、「1人(単身)」を除いた“同居あり”の割合は8割強(82.3%)となっています。

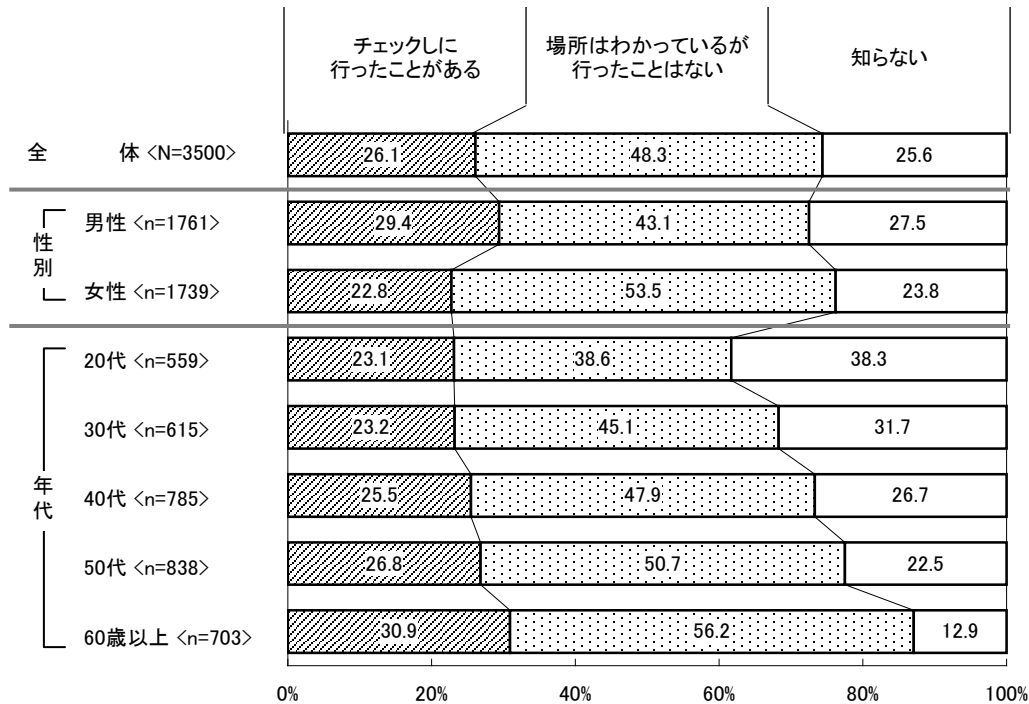
性別にみると、「1人(単身)」の割合は《女性》(14.7%)よりも《男性》(20.6%)の方がやや多くなっています。

年代別にみると、「1人(単身)」の割合はほとんどの年齢層で1割台となっていますが、《20代》では3割近く(27.3%)に達しています。一方、年代が上がるほど「2人」の割合は高く、《60歳以上》では半数を超えています(53.9%)。

2. 災害が発生した際の避難場所を知っているか

「場所はわかっているが行ったことはない」が半数近く(48.3%)を占め、「チェックしに行ったことがある」(26.1%)と「知らない」(25.6%)はともに4人に1人程度。

図 2. 災害が発生した際の避難場所を知っているか

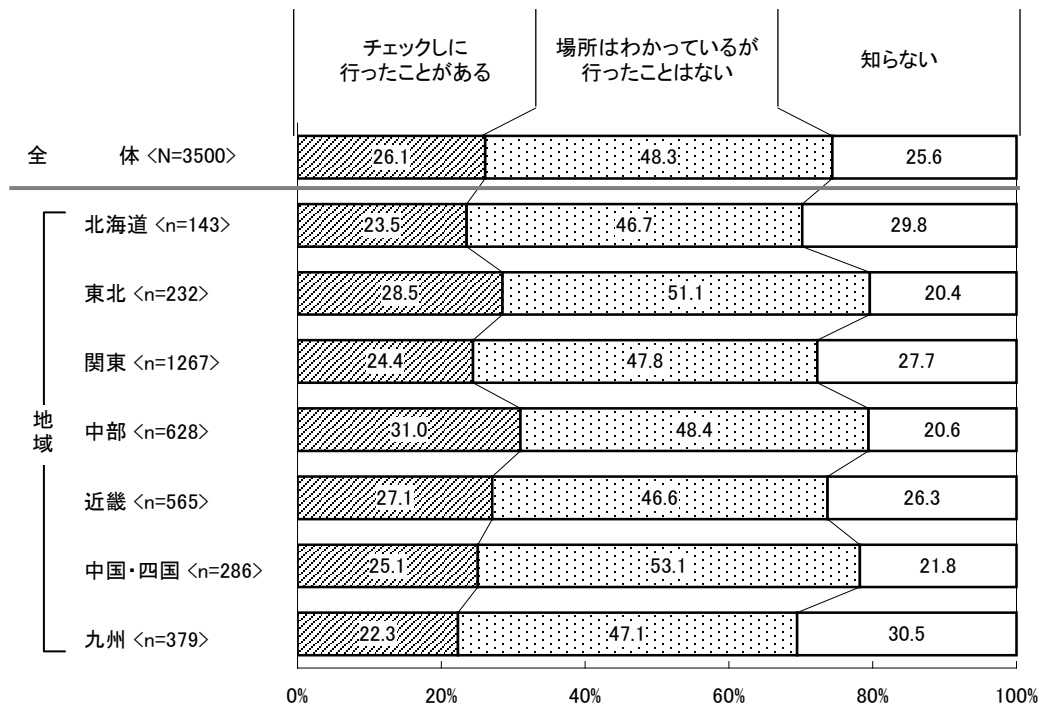


災害が発生した際の避難場所を知っているかどうかをみると、「チェックしに行ったことがある」は4人に1人程度の割合(26.1%)で、「場所はわかっているが行ったことはない」が半数近く(48.3%)を占めて最も多くなっています。「知らない」という人の割合も4人に1人程度(25.6%)です。

性別にみると、「チェックしに行ったことがある」の割合は、《女性》(22.8%)よりも《男性》(29.4%)の方が高く、「場所はわかっているが行ったことはない」の割合は《男性》(43.1%)よりも《女性》(53.5%)の方が高くなっています。

年代別にみると、「チェックしに行ったことがある」の割合は、年代が上がるほど少しずつ高くなっています。加えて、「知らない」の割合は若い年代ほど高く、《60歳以上》では1割台(12.9%)に過ぎませんが、《20代》では4割近く(38.3%)に達しています。

図 3. 災害が発生した際の避難場所を知っているか（地域別）



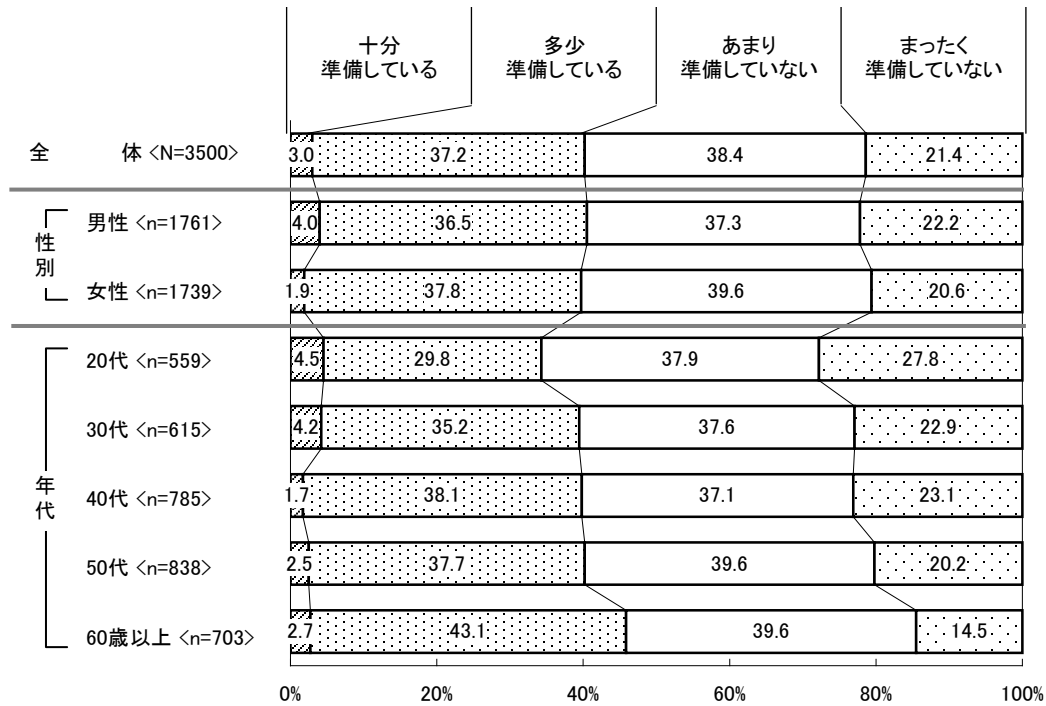
地域別にみると、「チェックしに行ったことがある」の割合が比較的高いのは《中部》(31.0%)、《東北》(28.5%)などで、「知らない」割合が高いのは《九州》(30.5%)、《北海道》(29.8%)などとなっています。

3. 災害時に避難する際の防災グッズを準備しているか

“準備している”(40.2%)よりも“準備していない”(59.8%)の方が多い。

●“準備している”割合は、年代が上がるほど高い。

図 4. 災害時に避難する際の防災グッズを準備しているか

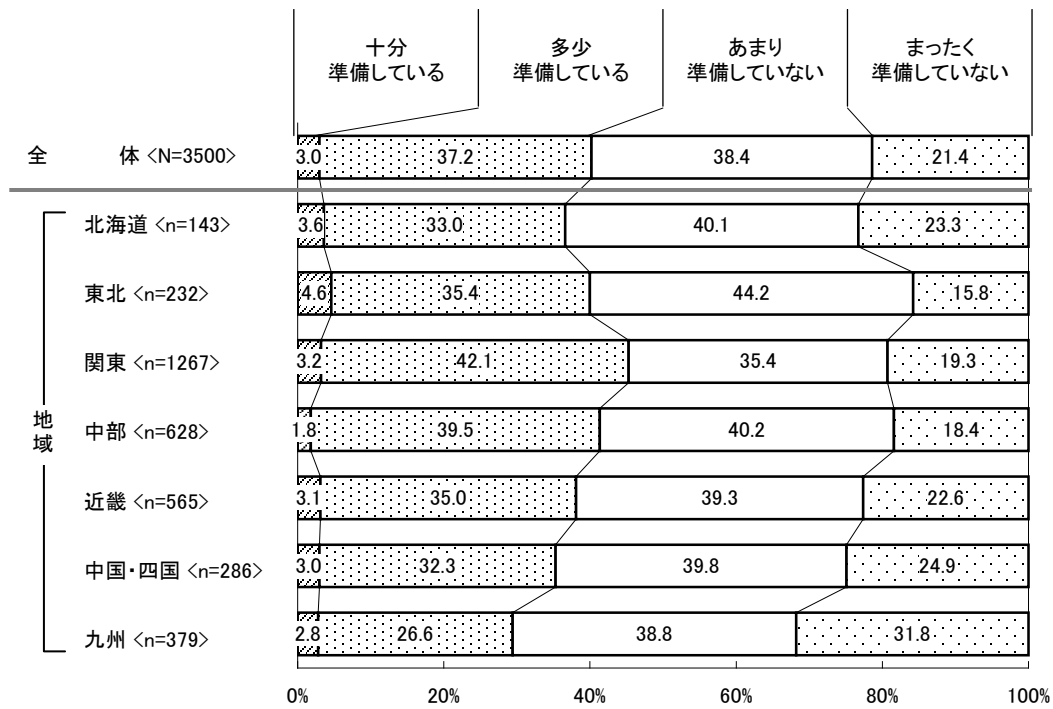


災害時に避難する際の防災グッズを準備しているかどうかをみると、「十分準備している」という回答はごくわずか(3.0%)ですが、「多少準備している」(37.2%)を合わせると、「準備している」の割合は4割程度(40.2%)で、「あまり準備していない」(38.4%)、「まったく準備していない」(21.4%)を合わせた「準備していない」(59.8%)という人の方が多くなっています。

性別ではあまり大きな差はみられません。

年代別では、「準備している(十分+多少)」の割合は年代が上がるほど高く、最も高い《60歳以上》(45.8%)では、最も低い《20代》(34.3%)よりも10ポイント以上高くなっています。

図 5. 災害時に避難する際の防災グッズを準備しているか（地域別）



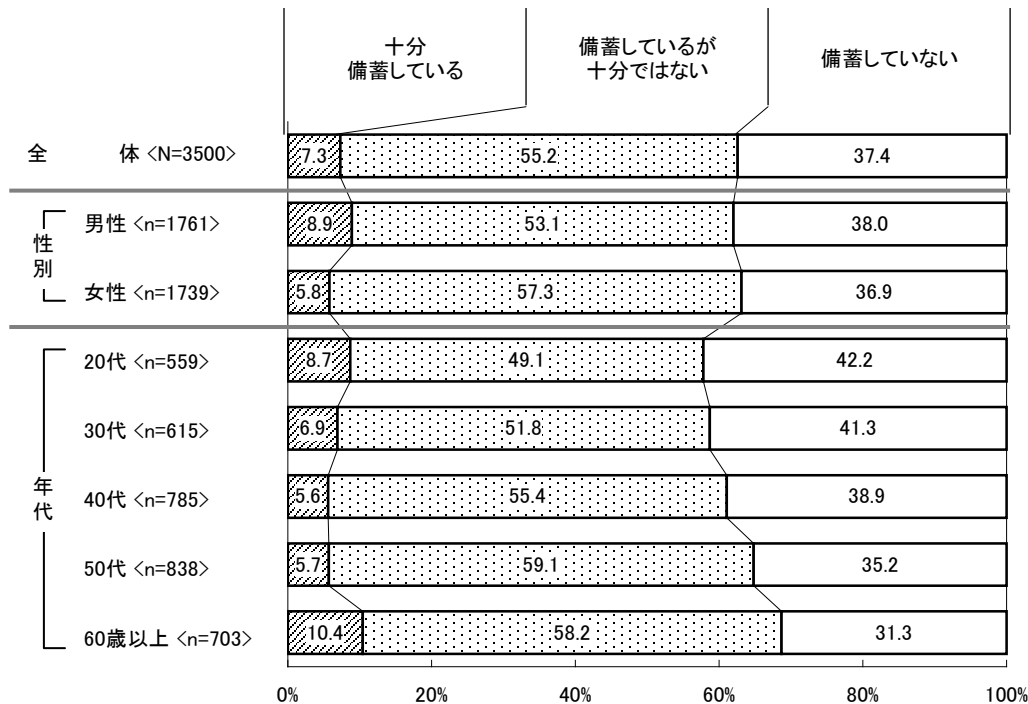
地域別にみると、“準備している”割合は《関東》(45.3%)、《中部》(41.4%)などで高く、《九州》(29.4%)で低くなっています。

4. 災害に備えた食料品の備蓄をしているか

「備蓄しているが十分ではない」が半数を超えており(55.2%)、そのほかでは「備蓄していない」(37.4%)が多く、「十分備蓄している」はごくわずか(7.3%)。

●“備蓄している”の割合は年代が上がるほど高い。

図 6. 災害に備えた食料品の備蓄をしているか

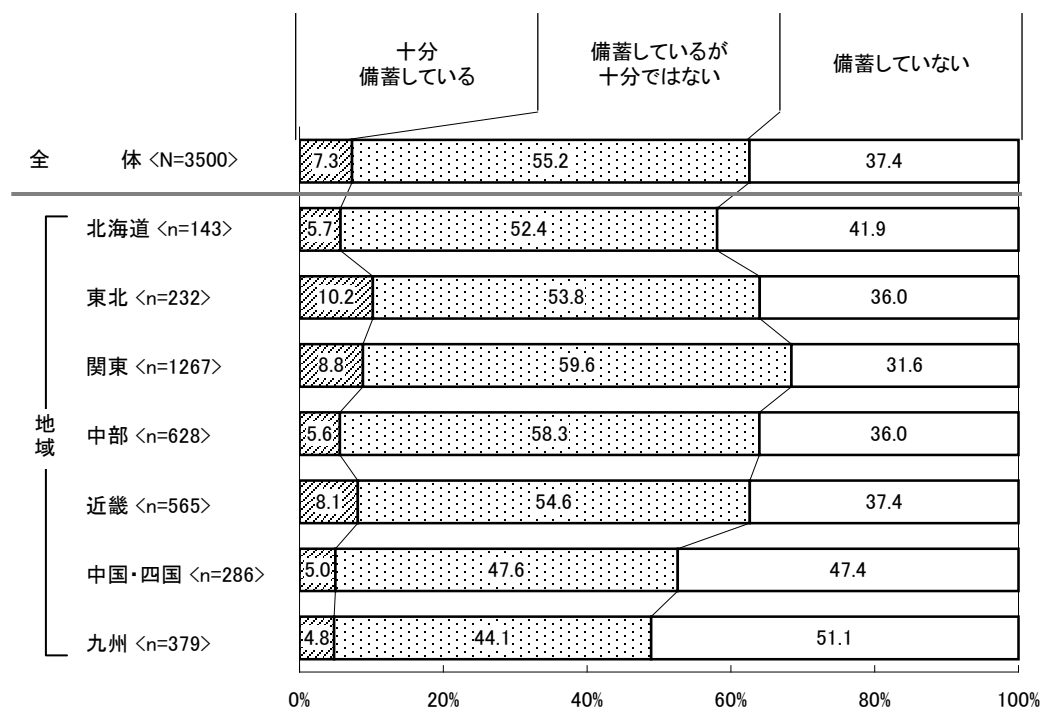


災害に備えた食料品の備蓄については、最も多いのは「備蓄しているが十分ではない」で半数を超えています(55.2%)。そのほかの回答は、「備蓄していない」(37.4%)が多く、「十分備蓄している」という人はごくわずか(7.3%)となっています。

性別ではあまり大きな差はありません。

年代別にみると、「十分備蓄している」「備蓄しているが十分ではない」を合わせた“備蓄している”の割合は年代が上がるほど高く、《20代》(57.8%)、《30代》(58.7%)の6割弱に対し、《60歳以上》では10ポイント以上高い7割弱(68.7%)を占めています。

図 7. 災害に備えた食料品の備蓄をしているか（地域別）



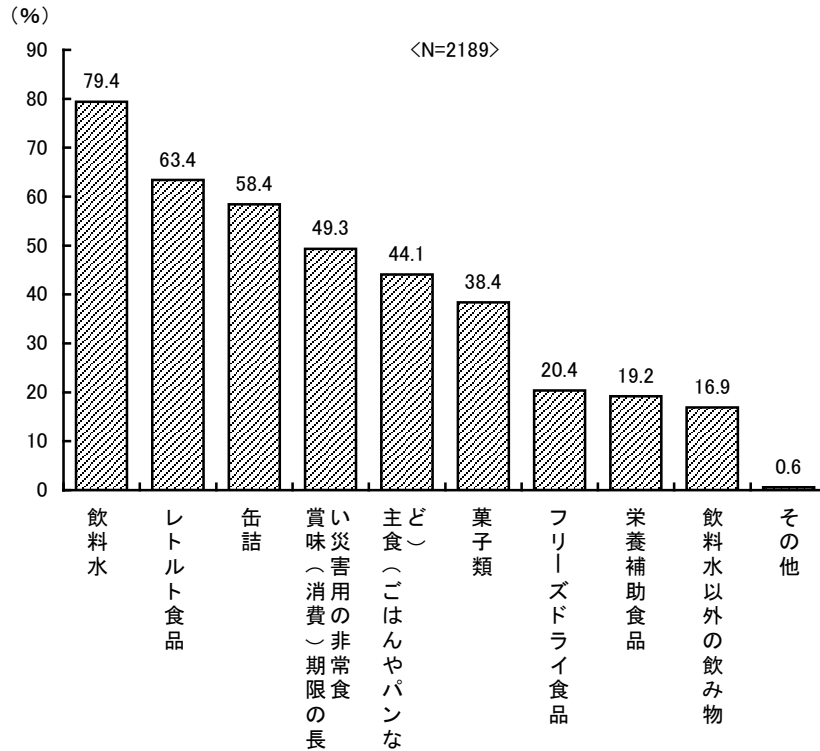
地域別にみると、“備蓄している”割合についても、防災グッズを“準備している”割合と同様に《関東》(68.4%)、《中部》(64.0%)が高めで、《九州》(48.9%)が最も低くなっています。

4-1. どのような食料品を備蓄しているか

「飲料水」(79.4%)が最も多く、以下「レトルト食品」(63.4%)、「缶詰」(58.4%)、「賞味(消費)期限の長い災害用の非常食」(49.3%)、「主食(ごはんやパンなど)」(44.1%)、「菓子類」(38.4%)などが備蓄されている。

●性別では《男性》よりも《女性》の方が、年代別では年代が上がるほど全般に高い傾向。

図 8. どのような食料品を備蓄しているか (複数回答)



性別	男性 <n=1091>	79.9	61.6	56.2	51.4	41.1	31.3	17.6	19.1	15.5	0.7
	女性 <n=1098>	78.8	65.1	60.6	47.2	47.0	45.3	23.3	19.4	18.3	0.6
年代	20代 <n=323>	77.3	56.1	49.5	50.0	37.8	28.0	20.3	18.8	12.9	0.8
	30代 <n=361>	81.6	53.3	48.4	57.9	42.6	33.3	22.0	21.0	10.8	0.7
	40代 <n=480>	80.7	68.0	56.6	51.5	44.7	45.0	20.3	21.6	17.2	-
	50代 <n=543>	78.3	65.6	63.1	45.1	45.5	40.5	18.6	20.3	17.6	0.8
	60歳以上 <n=483>	78.9	68.6	68.2	44.9	47.1	40.1	21.5	14.7	23.2	0.8

「十分備蓄している」「備蓄しているが十分ではない」と答えた人に、どのような食料品を備蓄しているかを聞いたところ、「飲料水」(79.4%)が最も多く、以下「レトルト食品」(63.4%)、「缶詰」(58.4%)、「賞味(消費)期限の長い災害用の非常食」(49.3%)、「主食(ごはんやパンなど)」(44.1%)、「菓子類」(38.4%)などがあげられています。

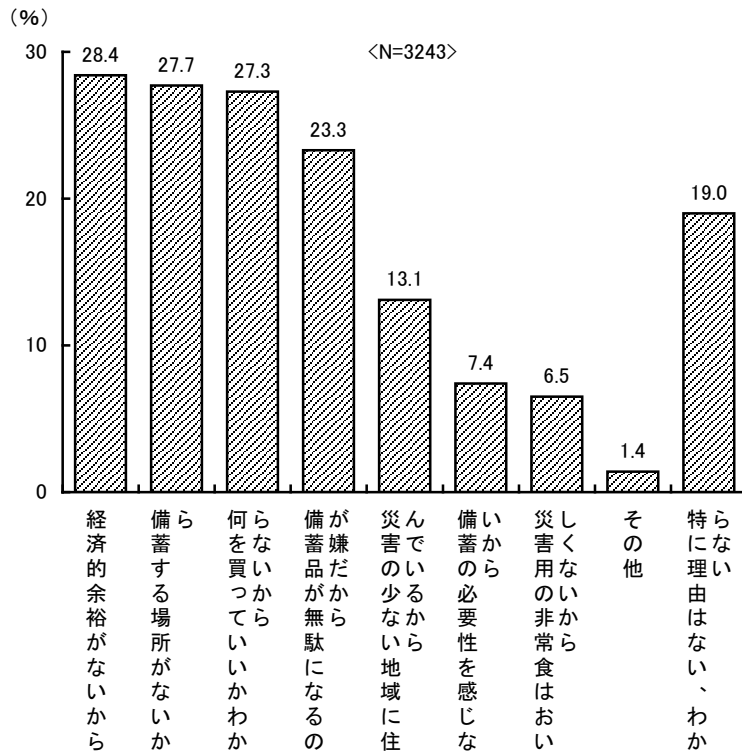
性別にみると、総じて《女性》の方が高い割合となっている項目が多く、特に「菓子類」(男性 31.3%、女性 45.3%)における差が大きくなっています。

年代別にみると、年代が上がるほど高い割合となっている項目が多く、特に「レトルト食品」「缶詰」「菓子類」「飲料水以外の飲み物」などでの差が目立ちます。

4-2. 十分備蓄できていない、または備蓄していない理由

「経済的余裕がないから」(28.4%)、「備蓄する場所がないから」(27.7%)、「何を買っていいかわからないから」(27.3%)、「備蓄品が無駄になるのが嫌だから」(23.3%)、「災害の少ない地域に住んでいるから」(13.1%)といった理由で備蓄できていない。

図 9. 十分備蓄できていない、または備蓄していない理由（複数回答）



性別	男性 <n=1605>	27.9	24.3	22.0	23.3	14.7	10.2	5.6	0.8	22.5
女性 <n=1638>	28.9	31.0	32.5	23.2	11.5	4.6	7.4	2.0	15.6	
年代	20代 <n=511>	32.8	27.9	37.9	15.6	11.2	6.8	4.8	1.1	17.8
	30代 <n=572>	28.0	34.5	31.3	21.0	10.8	7.4	4.4	1.7	16.2
	40代 <n=741>	33.3	32.1	25.8	25.6	11.0	6.0	8.4	1.3	16.8
	50代 <n=789>	30.1	26.0	23.6	24.3	12.5	7.3	7.1	1.6	18.6
	60歳以上 <n=630>	17.4	18.2	21.4	27.4	20.1	9.6	6.6	1.5	25.5

「備蓄していない」「備蓄しているが十分ではない」と回答した人の理由をみると、「経済的余裕がないから」(28.4%)、「備蓄する場所がないから」(27.7%)、「何を買っていいかわからないから」(27.3%)、「備蓄品が無駄になるのが嫌だから」(23.3%)、「災害の少ない地域に住んでいるから」(13.1%)などがあげられています。

性別にみると、全般的な傾向はあまり変わりませんが、「何を買っていいかわからないから」をあげる割合は、《女性》(32.5%)が《男性》(22.0%)を10ポイント以上上回っています。

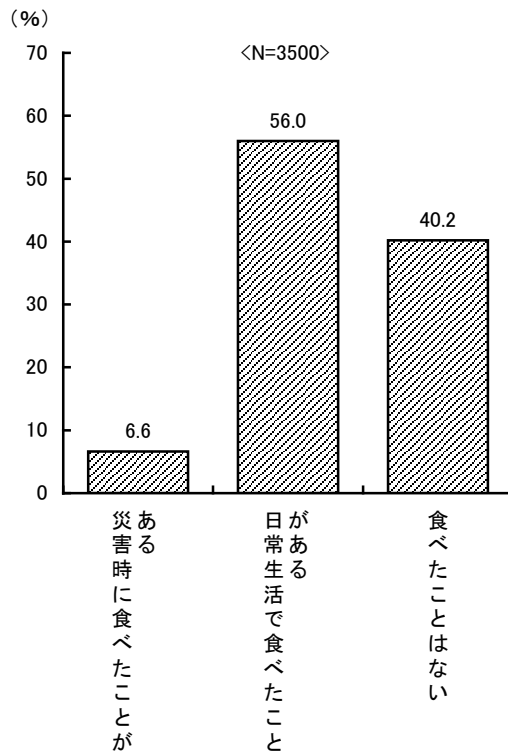
年代別にみると、「何を買っていいかわからないから」は若い年代ほど高い割合なのに対し、「備蓄品が無駄になるのが嫌だから」「災害の少ない地域に住んでいるから」などは年代が上がるほど高い割合となっています。

5. 災害用に備蓄していた食料品を食べたことはあるか

「災害時に食べたことがある」がごくわずか(6.6%)にいますが、そのほかでは「日常生活で食べたことがある」(56.0%)の方が、「食べたことはない」(40.2%)よりも多い。

●地域別では、《東北》で「災害時に食べたことがある」(18.4%)が多いが目立つ。

図 10. 災害用に備蓄していた食料品を食べたことはあるか（複数回答）



性別	男性 <n=1761>	7.9	53.0	42.3
女性 <n=1739>		5.2	59.0	38.2
年代	20代 <n=559>	8.4	49.5	46.4
	30代 <n=615>	7.0	54.4	41.4
	40代 <n=785>	7.9	54.0	40.6
	50代 <n=838>	5.7	57.5	40.0
	60歳以上 <n=703>	4.3	63.0	34.2

災害用に備蓄していた食料品を食べたことはあるかどうかをみると、「災害時に食べたことがある」がごくわずか(6.6%)にいますが、そのほかでは「日常生活で食べたことがある」(56.0%)という方が、「食べたことはない」(40.2%)よりも多くなっています。

性別にみると、「日常生活で食べたことがある」の割合は《男性》(53.0%)よりも《女性》(59.0%)の方が、「食べたことはない」は《女性》(38.2%)よりも《男性》(42.3%)の方が、それぞれ若干高い割合となっています。

年代別にみると、年代が上がるほど「日常生活で食べたことがある」、若い年代ほど「食べたことはない」の割合が、それぞれ高くなっています。

表 1. 災害用に備蓄していた食料品を食べたことはあるか（地域別）

(%)

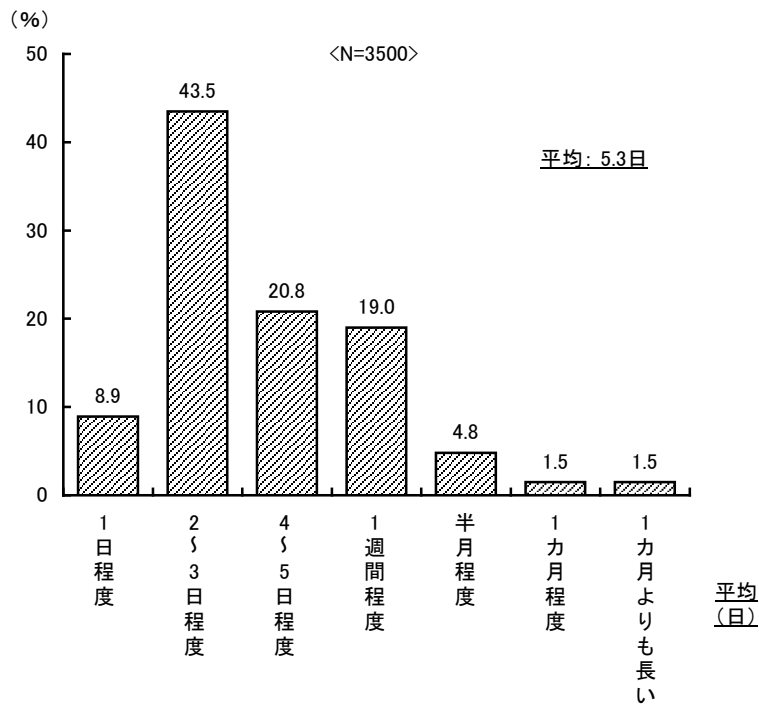
	サンプル数	災害時に食べたことがある	日常生活で食べたことがある	食べたことはない	
全 体	3500	6.6	56.0	40.2	
地域	北海道	143	9.3	49.0	44.7
	東北	232	18.4	55.0	34.7
	関東	1267	6.3	62.7	34.8
	中部	628	5.9	57.4	37.5
	近畿	565	4.2	53.5	44.3
	中国・四国	286	4.6	46.9	50.3
	九州	379	5.3	45.1	50.9

地域別にみると、《東北》で「災害時に食べたことがある」が2割近く（18.4%）に達しているのが目立ち、東日本大震災の影響の大きさがうかがえます。

6. 自宅内にある食料品で、家族全員が何日くらい過ごせると思うか

「2～3 日程度」(43.5%)が最も多く、以下「4～5 日程度」(20.8%)、「1 週間程度」(19.0%)などの順で、平均は「5.3 日」。

図 11. 自宅内にある食料品で、家族全員が何日くらい過ごせると思うか



性別	男性 <n=1761>	7.7	43.7	22.7	18.1	5.1	1.1	1.5	5.2
女性 <n=1739>		10.2	43.2	18.8	19.8	4.5	1.9	1.6	5.4
年代	20代 <n=559>	14.3	43.7	16.8	18.8	2.2	1.2	3.0	5.3
	30代 <n=615>	10.1	47.8	19.5	16.4	3.9	0.8	1.5	4.8
	40代 <n=785>	9.6	45.3	20.3	17.5	4.6	1.0	1.8	5.2
	50代 <n=838>	8.2	44.9	20.2	17.8	6.6	1.7	0.6	5.1
	60歳以上 <n=703>	3.8	35.8	26.2	24.5	5.7	2.8	1.2	6.1

自宅内にある食料品で、家族全員が何日くらい過ごせると思うかをみると、「2～3 日程度」が4割を超えて(43.5%)最も多く、以下「4～5 日程度」(20.8%)、「1 週間程度」(19.0%)、「1 日程度」(8.9%)などが多くなっています。平均は「5.3 日」です。

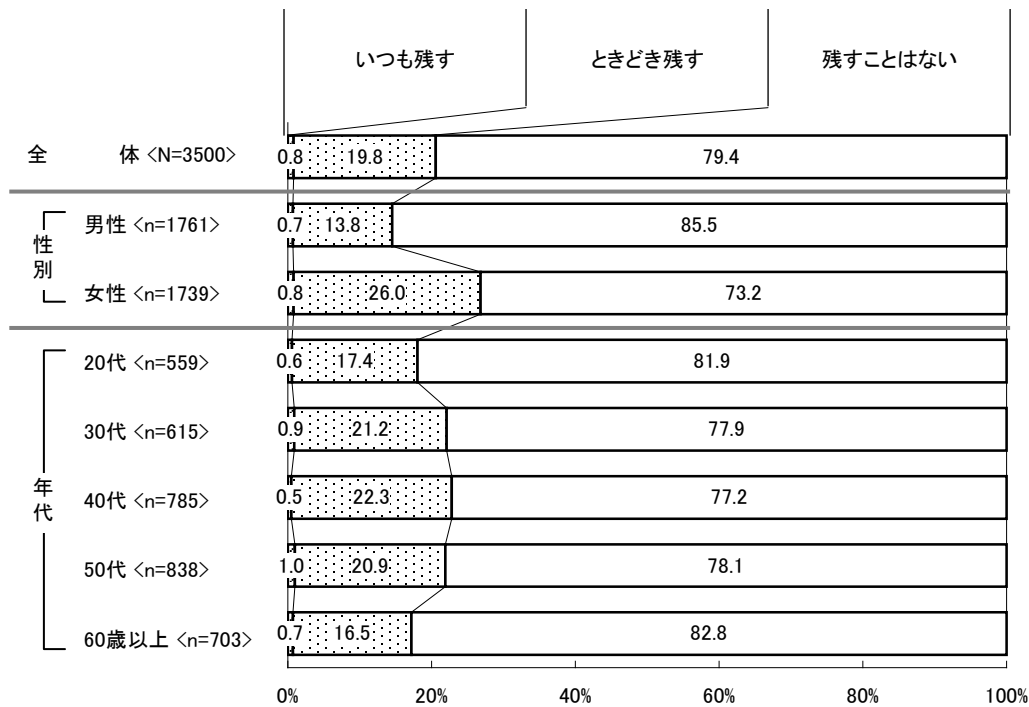
性別にみると、平均は《男性》5.2 日、《女性》5.4 日と、あまり変わりません。

年代別にみると、《60 歳以上》は平均(6.1 回)で、他の年代の5回前後に比べて多くなっています。

7. 普段、食事を残すことはあるか

“残すことがある”は2割程度(20.6%)で、「残すことはない」(79.4%)が多数を占める。

図 12. 普段、食事を残すことはあるか



普段、食事を残すことはあるかどうかをみると、「いつも残す」という人はほとんどおらず(0.8%)、「ときどき残す」(19.8%)を合わせても、“残すことがある”という割合は2割程度(20.6%)で、「残すことはない」(79.4%)が多数を占めています。

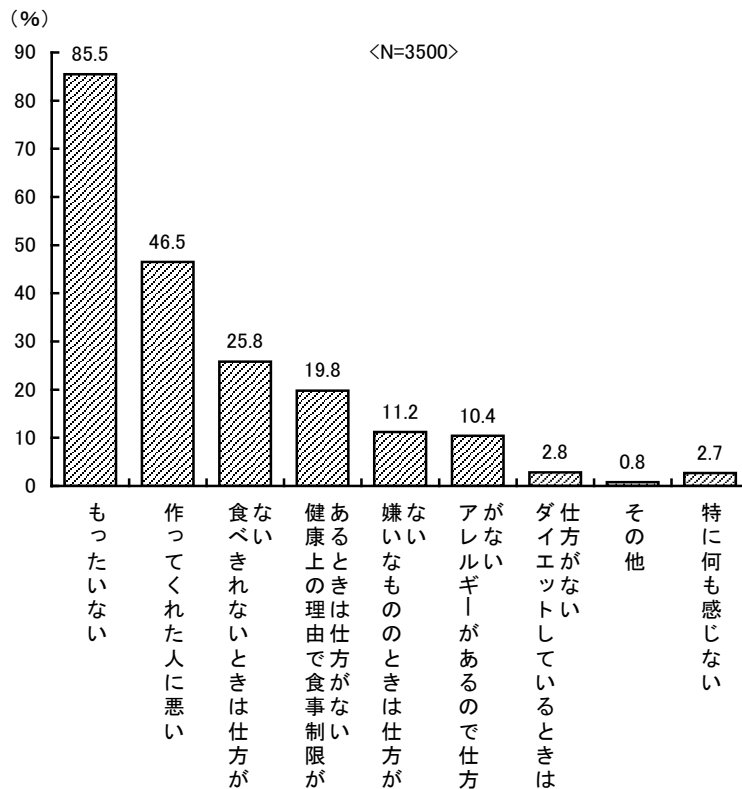
性別にみると、“残すことがある”という割合は、《男性》(14.5%)よりも《女性》(26.8%)の方が高くなっています。

年代別ではあまり大きな差はみられません。

8. 食事を残すことについて、どう感じているか

「もったいない」(85.5%)、「作ってくれた人に悪い」(46.5%)と、残すことについて“罪悪感がある”意見が多いが、「食べきれないときは仕方がない」(25.8%)、「健康上の理由で食事制限があるときは仕方がない」(19.8%)など、“やむを得ない”という意見も少なくない。

図 13. 食事を残すことについて、どう感じているか（複数回答）



性別	男性 <n=1761>	85.7	50.2	20.1	17.3	10.4	8.7	2.4	0.7	3.4
女性 <n=1739>	85.3	42.7	31.5	22.3	11.9	12.1	3.3	0.8	2.1	
年代	20代 <n=559>	87.4	56.5	23.4	18.4	11.1	12.4	2.0	-	2.6
	30代 <n=615>	84.9	52.3	29.7	20.7	13.0	12.4	3.7	0.7	2.3
	40代 <n=785>	85.8	43.7	26.8	20.6	9.1	11.7	3.7	1.0	3.4
	50代 <n=838>	85.0	44.8	24.0	19.1	12.9	9.6	2.7	1.4	3.1
	60歳以上 <n=703>	84.6	38.5	25.0	19.9	9.9	6.4	1.9	0.4	2.0

食事を残すことについて、どう感じているでしょうか。

「もったいない」が8割以上（85.5%）を占め、突出して多くなっています。次いで、「作ってくれた人に悪い」も半数近く（46.5%）を占め、残すことについて“罪悪感がある”意見が多くなっていますが、「食べきれないときは仕方がない」（25.8%）、「健康上の理由で食事制限があるときは仕方がない」（19.8%）、「嫌いなものときは仕方がない」（11.2%）、「アレルギーがあるので仕方がない」（10.4%）など、“やむを得ない”という意見も少なくありません。

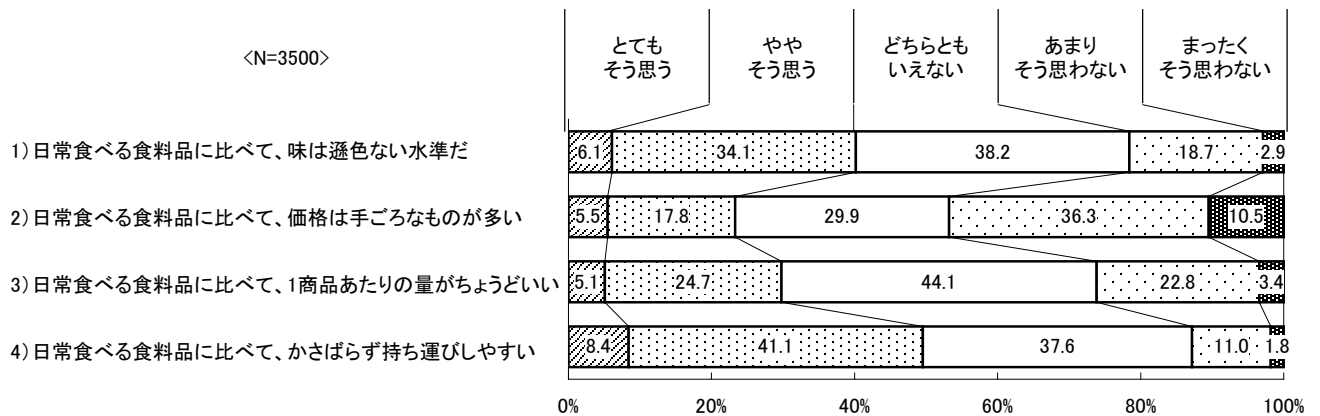
性別にみると、「作ってくれた人に悪い」は《女性》（42.7%）よりも《男性》（50.2%）の方が多めで、「食べきれないときは仕方がない」（男性 20.1%、女性 31.5%）など、“やむを得ない”という回答は《女性》の方が多くなっています。

年代別にみると、「作ってくれた人に悪い」は若い年代ほど高い傾向が強く、《20代》（56.5%）では《60歳以上》（38.5%）より20ポイント近くも高い割合です。

9. 災害用の非常食についての考え

【4】日常食べる食料品に比べて、かさばらず持ち運びしやすい】は“そう思う”が半数近く(49.5%)に達し、【1】日常食べる食料品に比べて、味は遜色ない水準だ】も“そう思う”が多い(40.2%)が、【3】日常食べる食料品に比べて、1商品あたりの量がちょうどいい】については“そう思う”(29.8%)と“そう思わない”(26.1%)がほぼ同数、【2】日常食べる食料品に比べて、価格は手ごろなものが多い】については、“そう思う”(23.3%)よりも“そう思わない”(46.8%)の方がはるかに多い。

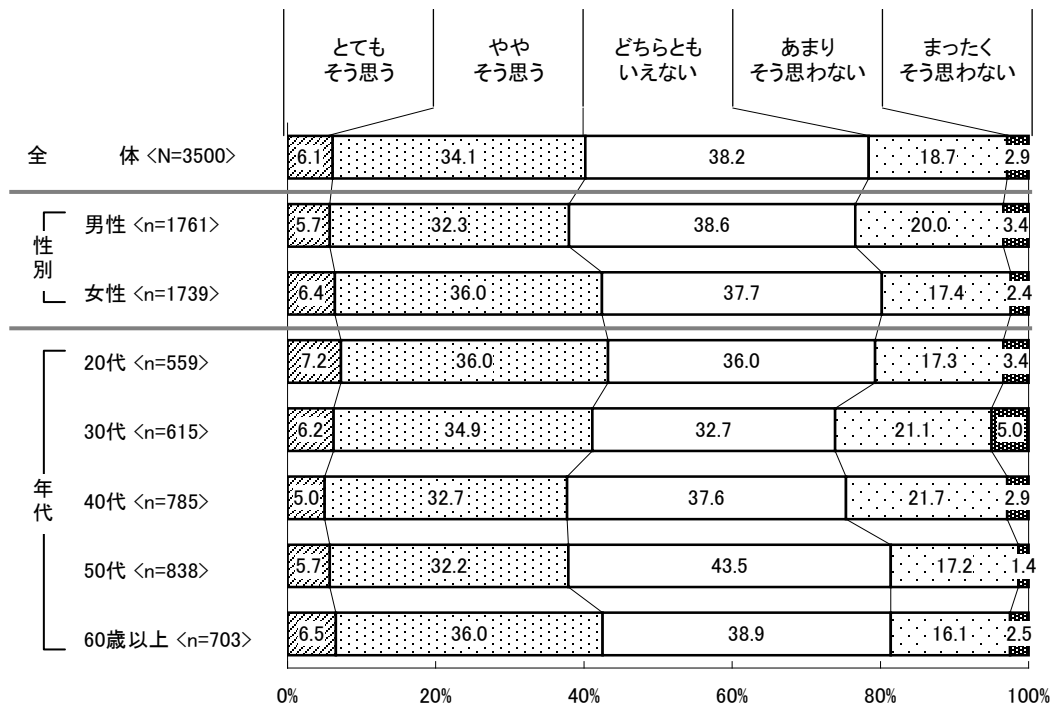
図 14. 災害用の非常食についての考え



災害用の非常食についての考えを、【1】日常食べる食料品に比べて、味は遜色ない水準だ】～【4】日常食べる食料品に比べて、かさばらず持ち運びしやすい】の4項目ごとに聞いてみたところ、いずれも「とてもそう思う」は1割以下とあまり多くありませんが、「ややそう思う」を合わせた“そう思う”の割合が最も高いのは【4】日常食べる食料品に比べて、かさばらず持ち運びしやすい】で、半数近く(49.5%)に達しており、「あまりそう思わない」(11.0%)、「まったくそう思わない」(1.8%)を合わせた“そう思わない”(12.8%)は少数にとどまっています。

次いで、【1】日常食べる食料品に比べて、味は遜色ない水準だ】も“そう思う”(40.2%)が“そう思わない”(21.6%)を大きく上回っていますが、【3】日常食べる食料品に比べて、1商品あたりの量がちょうどいい】については“そう思う”(29.8%)と“そう思わない”(26.1%)がほぼ同数、【2】日常食べる食料品に比べて、価格は手ごろなものが多い】については、“そう思う”(23.3%)よりも“そう思わない”(46.8%)の方がはるかに多くなっています。

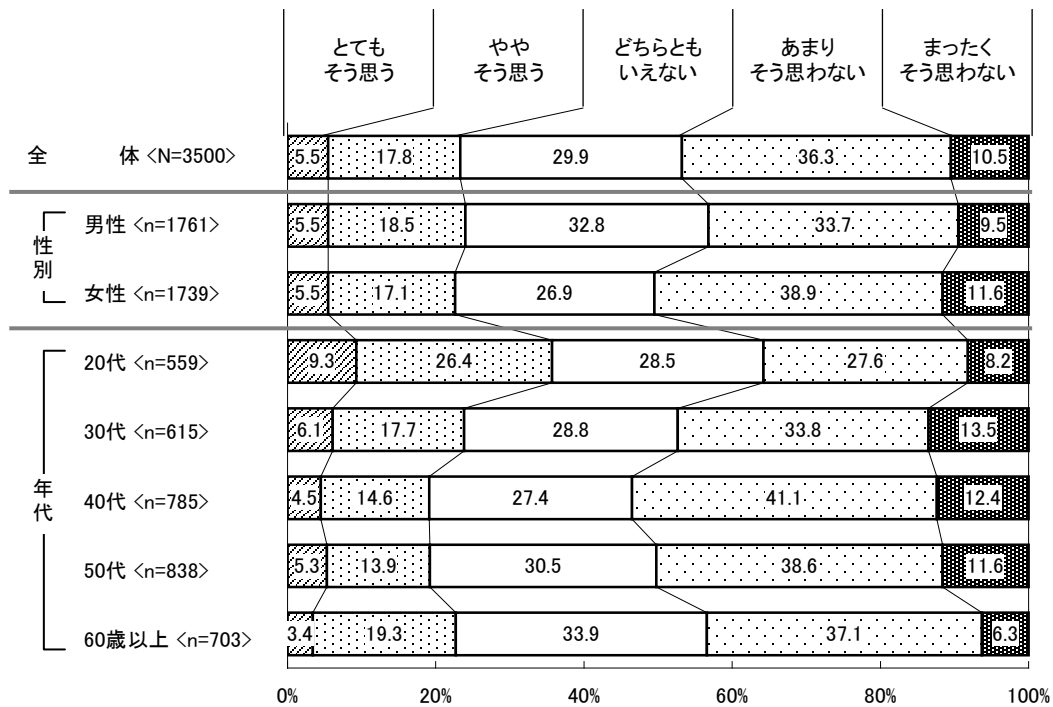
図 15. 災害用の非常食についての考え【1）日常食べる食料品に比べて、味は遜色ない水準だ】（属性別）



【1）日常食べる食料品に比べて、味は遜色ない水準だ】について属性別にみると、まず性別では、“思う（とても+やや）”（同意率）の割合は、《男性》（38.0%）よりも《女性》（42.4%）の方がやや高めです。

年代別では、あまり差はありません。

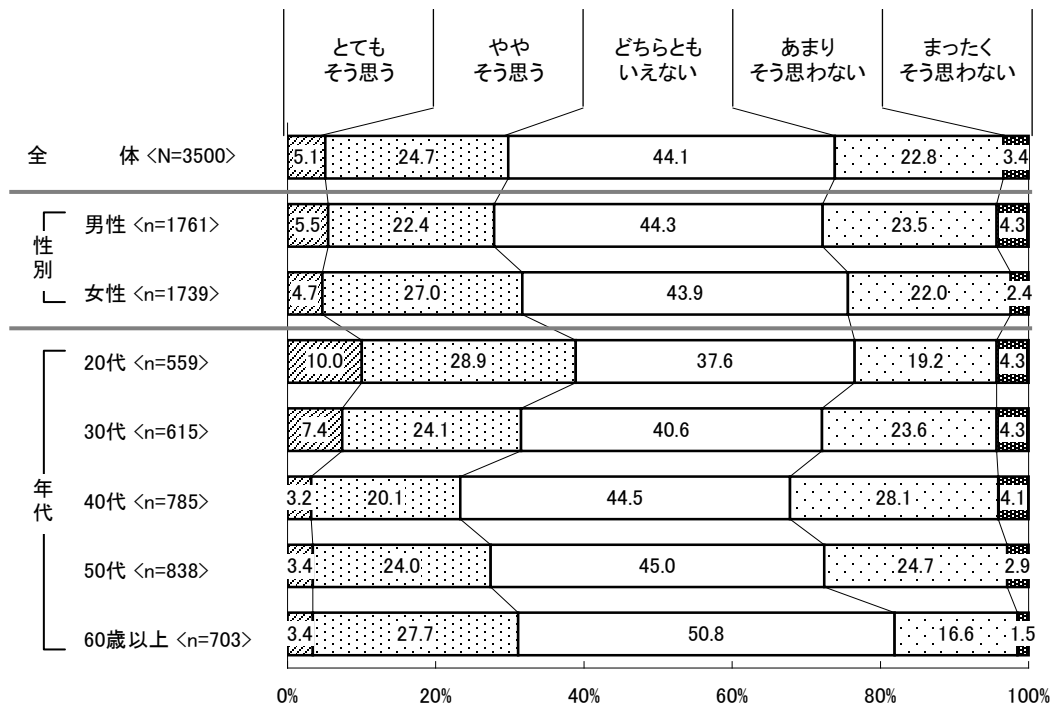
図 16. 災害用の非常食についての考え【2】日常食べる食料品に比べて、価格は手ごろなものが多い】(属性別)



次いで、【2】日常食べる食料品に比べて、価格は手ごろなものが多い】について性別にみると、同意率は男女であまり変わりませんが、“そう思わない（あまり+まったく）”の割合は、《男性》（43.2%）よりも《女性》（50.4%）の方がやや高くなっています。

年代別にみると、総じて“そう思わない（あまり+まったく）”という方が多いなか、《20代》では“そう思う”（35.7%）、と“そう思わない”（35.8%）がほぼ同率となっています。

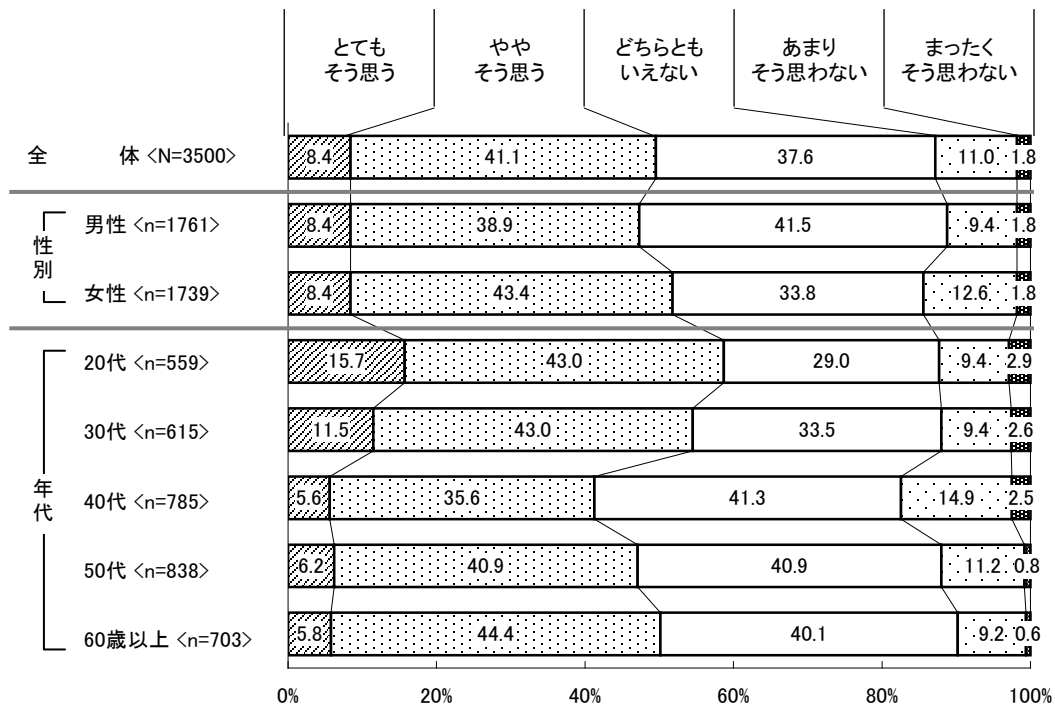
図 17. 災害用の非常食についての考え【3】日常食べる食料品に比べて、1 商品あたりの量がちょうどいい】（属性別）



次いで、【3】日常食べる食料品に比べて、1 商品あたりの量がちょうどいい】について性別にみると、“そう思う（とても＋やや）”の割合は、《男性》（27.9%）よりも《女性》（31.7%）の方がやや高めです。

年代別にみると、同意率が最も高いのは《20代》（38.9%）、最も低いのは《40代》（23.3%）となっています。

図 18. 災害用の非常食についての考え【4】日常食べる食料品に比べて、かさばらず持ち運びしやすい】（属性別）



最後に、【4】日常食べる食料品に比べて、かさばらず持ち運びしやすい】について性別にみると、同意率は《男性》(47.3%) よりも《女性》(51.8%) の方がやや高くなっています。

年代別にみると、同意率は《20代》(58.7%)、《30代》(54.5%) で高く、《40代》(41.2%) で低くなっています。

Ⅱ

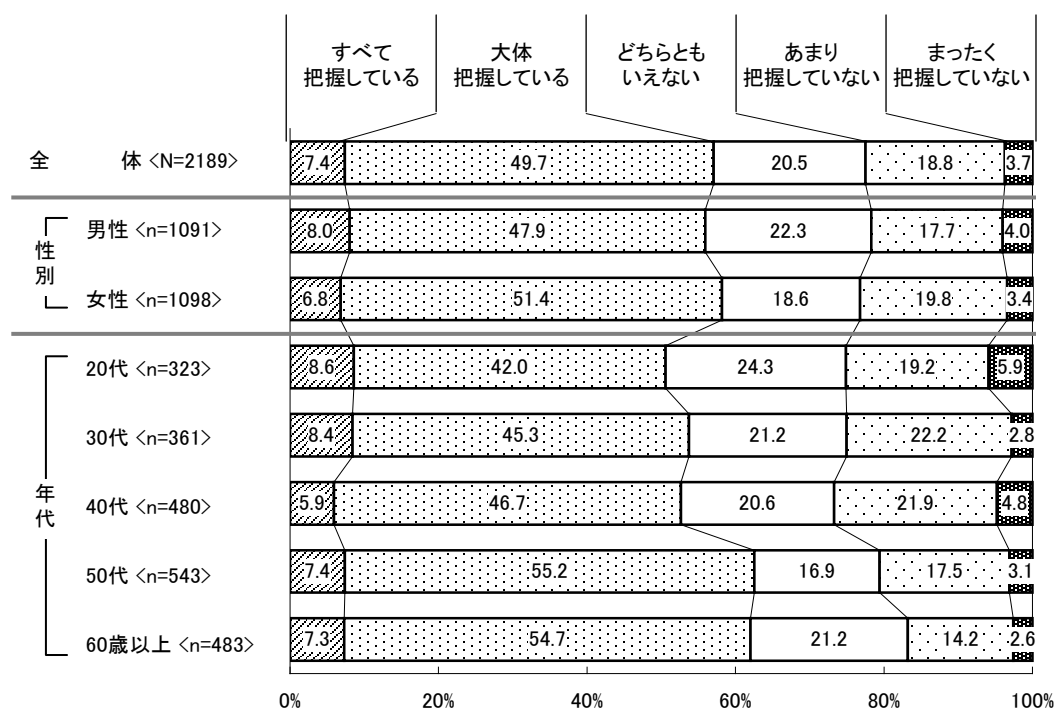
【災害用に備蓄している食料品】と【日常で食べる食料品】に関する意識と実態

1. 災害用に備蓄している食料品や日常で食べる食料品の賞味（消費）期限を把握しているか

1) 災害用に備蓄している食料品の賞味（消費）期限を把握しているか

“把握している”が6割弱(57.1%)、“把握していない”は2割程度(22.5%)にとどまる。

図 19. 災害用に備蓄している食料品の賞味（消費）期限を把握しているか

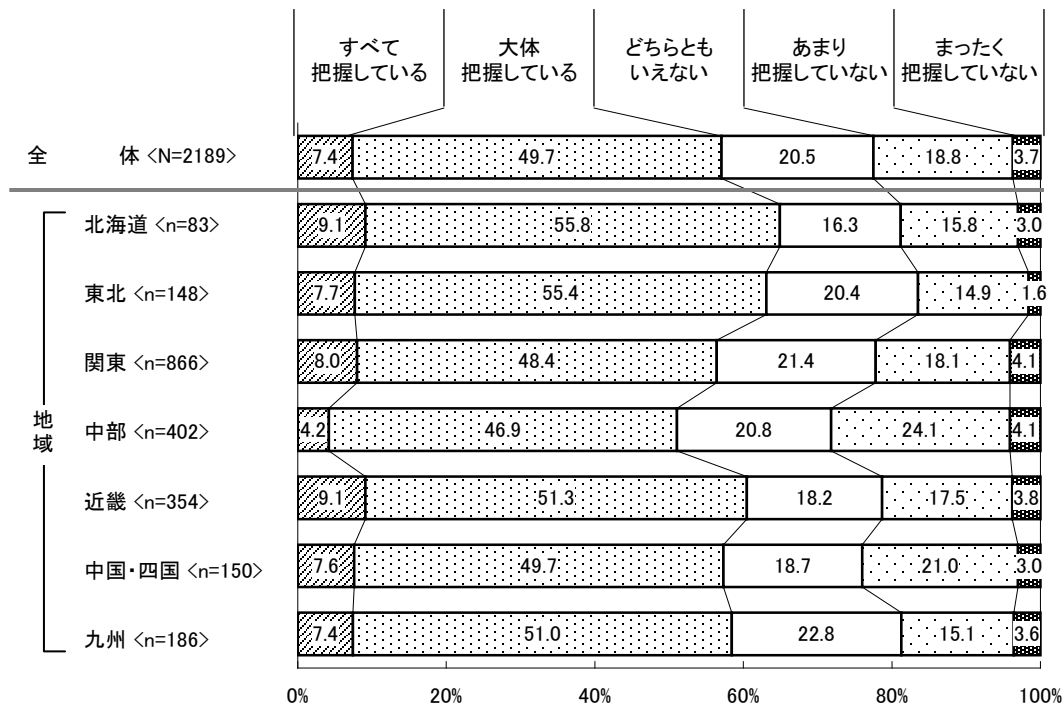


災害用に備蓄している食料品や日常で食べる食料品の賞味（消費）期限を把握しているか、【1）災害用に備蓄している食料品】と【2）日常で食べる食料品】に分けて聞いてみたところ、まず【1）災害用に備蓄している食料品】については、「すべて把握している」はわずか（7.4%）ですが、「大体把握している」は半数近く（49.7%）を占め、合わせて“把握している”という割合は6割近く（57.1%）になります。「あまり把握していない」（18.8%）、「まったく把握していない」（3.7%）を合わせた“把握していない”は2割程度（22.5%）にとどまっています。

性別ではあまり差はありません。

年代別にみると、“把握している（すべて+大体）”の割合は、《20代》（50.6%）、《30代》（53.8%）、《40代》（52.7%）では5割程度ですが、《50代》（62.6%）、《60歳以上》（62.0%）では6割強と高めになっています。

図 20. 災害用に備蓄している食料品の賞味（消費）期限を把握しているか（地域別）

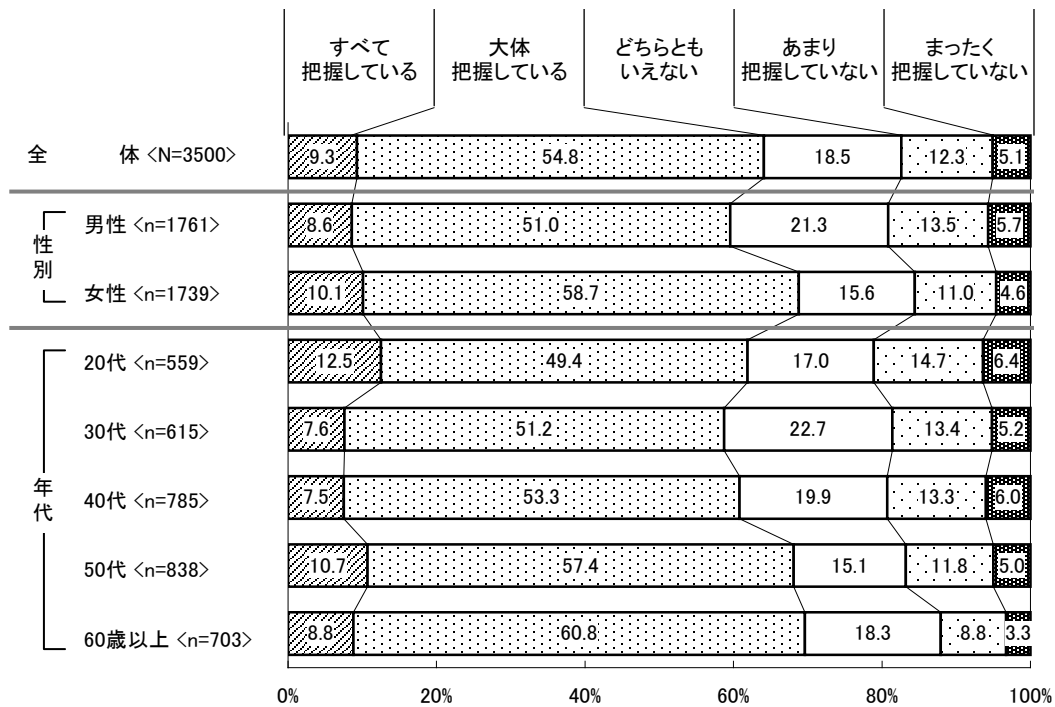


地域別にみると、“把握している（すべて＋大体）”の割合が高いのは《北海道》（64.9%）、《東北》（63.1%）、《近畿》（60.4%）などで6割台、低いのは《中部》で、5割程度（51.1%）にとどまっています。

2) 日常で食べる食料品の賞味（消費）期限を把握しているか

“把握している”が6割を超える(64.1%)。

図 21. 日常で食べる食料品の賞味（消費）期限を把握しているか



次いで、【2）日常で食べる食料品】の賞味（消費）期限を把握しているかについては、「すべて把握している」はやはり1割にも満たない割合（9.3%）ですが、「大体把握している」は半数を超え（54.8%）、合わせて“把握している”の割合は6割を超えています（64.1%）。また、前項の【1）災害用に備蓄している食料品】（57.1%）と比べ、やや高くなっています。「あまり把握していない」（12.3%）、「まったく把握していない」（5.1%）を合わせた“把握していない”は2割弱（17.4%）です。

性別にみると、“把握している（すべて+大体）”の割合は、《男性》（59.5%）よりも《女性》（68.8%）の方が10ポイント近く高くなっています。

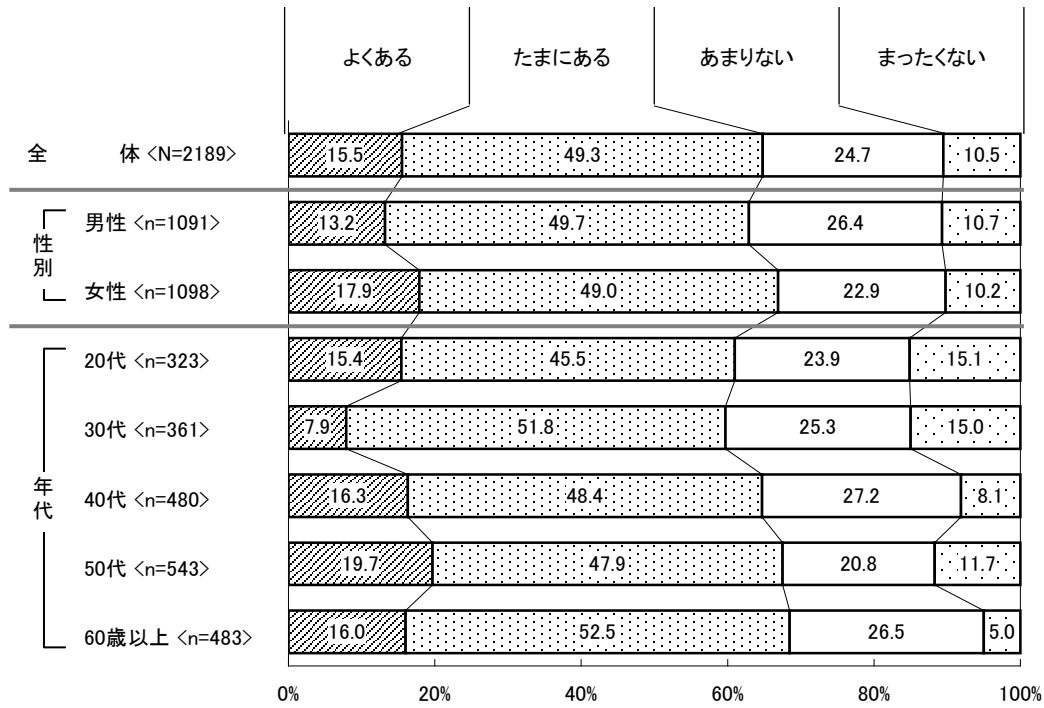
年代別にみると、年代が上がるほど“把握している”、若い年代ほど“把握していない”が多い傾向がみられます。

2. 災害用に備蓄している食料品や日常で食べる食料品の賞味(消費)期限が過ぎたことはあるか

1) 災害用に備蓄している食料品の賞味(消費)期限が過ぎたことはあるか

“ある”が6割を超える(64.9%)。

図 22. 災害用に備蓄している食料品の賞味(消費)期限が過ぎたことはあるか



災害用に備蓄している食料品や日常で食べる食料品の賞味(消費)期限が過ぎたことはあるかどうかをみると、まず【1) 災害用に備蓄している食料品】については、「よくある」(15.5%) はあまり多くありませんが、「たまにある」(49.3%) を合わせた“ある”の割合は6割を超えています(64.9%)。

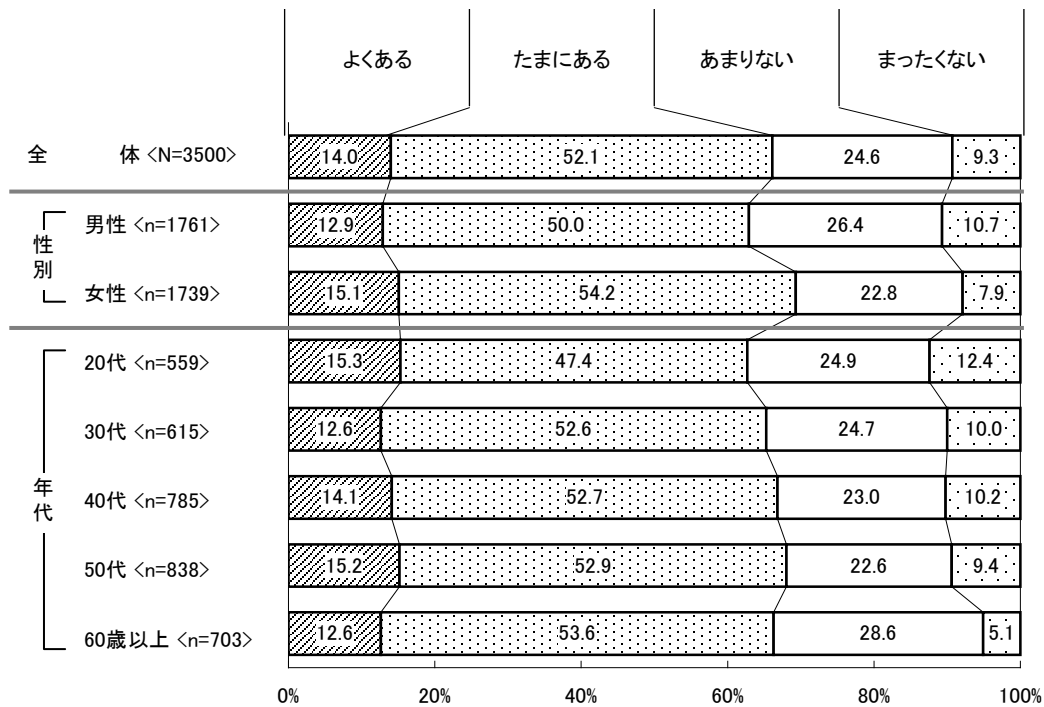
性別にみると、“ある(よく+たまに)”の割合は、《女性》(66.9%)の方が《男性》(62.9%)よりもやや高い程度で、あまり変わりません。

年代別にみると、“ある”の割合は年代が上がるほど少しずつ高くなる傾向がみられます。

2) 日常で食べる食料品の賞味（消費）期限が過ぎたことはあるか

“ある”の割合は6割台(66.1%)。

図 23. 日常で食べる食料品の賞味（消費）期限が過ぎたことはあるか



次いで、【2）日常で食べる食料品】の賞味（消費）期限が過ぎたことはあるかをみると、「よくある」（14.0%）、「たまにある」（52.1%）を合わせた“ある”の割合は6割台（66.1%）で、前項の【1）災害用に備蓄している食料品】の結果（64.9%）とあまり変わりません。

性別にみると、“ある（よく＋たまに）”の割合は、《男性》（62.8%）よりも《女性》（69.3%）の方がやや高めです。

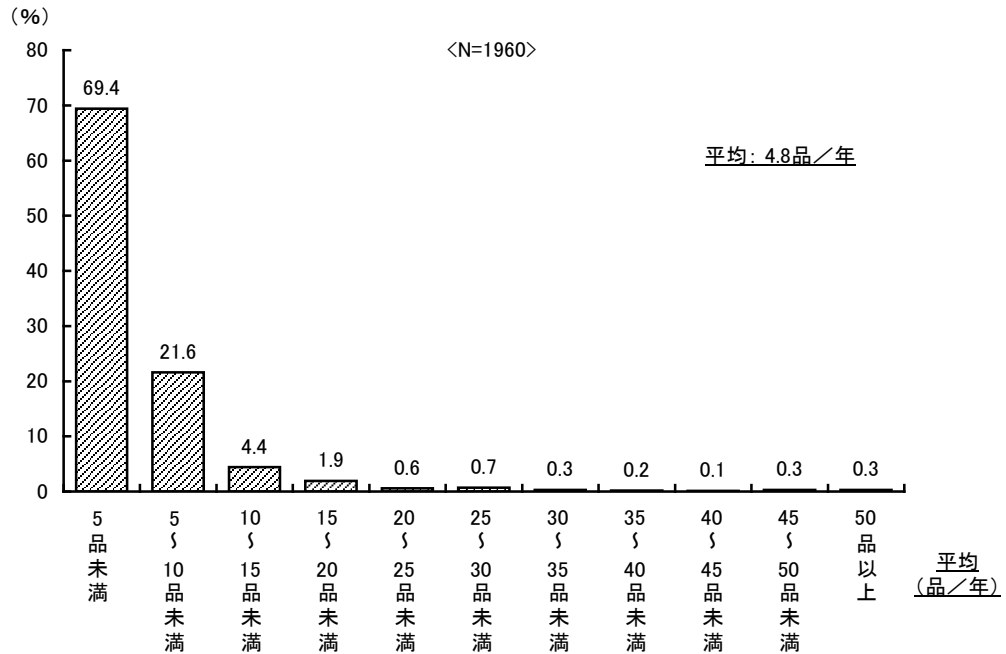
年代別にみると、「まったくない」の割合は若い年代ほど高い傾向がやや生じています。

3. 1年間でどのくらい、賞味（消費）期限が過ぎてしまった食料品があるか

1) 災害用に備蓄している食料品で賞味（消費）期限が過ぎてしまったもの

「5品未満」(69.4%)が圧倒的に多く、次いで「5～10品未満」(21.6%)。平均は年に「4.8品」。

図 24. 1年間でどのくらい、賞味（消費）期限が過ぎてしまった災害用に備蓄している食料品があるか



性別	属性	品数											平均 (品/年)
		5品未満	5品未満	10品未満	15品未満	20品未満	25品未満	30品未満	35品未満	40品未満	45品未満	50品以上	
性別	男性 <n=974>	66.2	24.0	5.3	2.0	0.4	0.5	0.5	0.1	0.2	0.3	0.5	5.0
	女性 <n=986>	72.5	19.2	3.6	1.9	0.8	1.0	0.1	0.4	-	0.3	0.1	4.7
年代	20代 <n=274>	66.8	23.5	4.6	2.5	-	1.6	-	0.1	0.9	-	-	5.1
	30代 <n=307>	71.6	20.4	4.4	2.0	0.9	0.6	0.1	-	-	-	0.1	4.5
	40代 <n=441>	69.9	20.9	5.5	0.7	1.1	0.1	0.3	0.9	-	-	0.8	4.7
	50代 <n=480>	65.1	24.3	4.0	2.2	0.9	1.2	0.9	0.1	-	1.2	0.1	5.6
	60歳以上 <n=459>	73.4	19.0	3.8	2.6	0.2	0.4	-	-	-	-	0.6	4.2

1年間でどのくらい、賞味（消費）期限が過ぎてしまった【1）災害用に備蓄している食料品】があるかをみると、「5品未満」が7割近く（69.4%）を占めて圧倒的に多く、次いで「5～10品未満」が2割程度（21.6%）となっています。そのほかの項目はいずれも1割未満にとどまっています。平均は年に「4.8品」です。

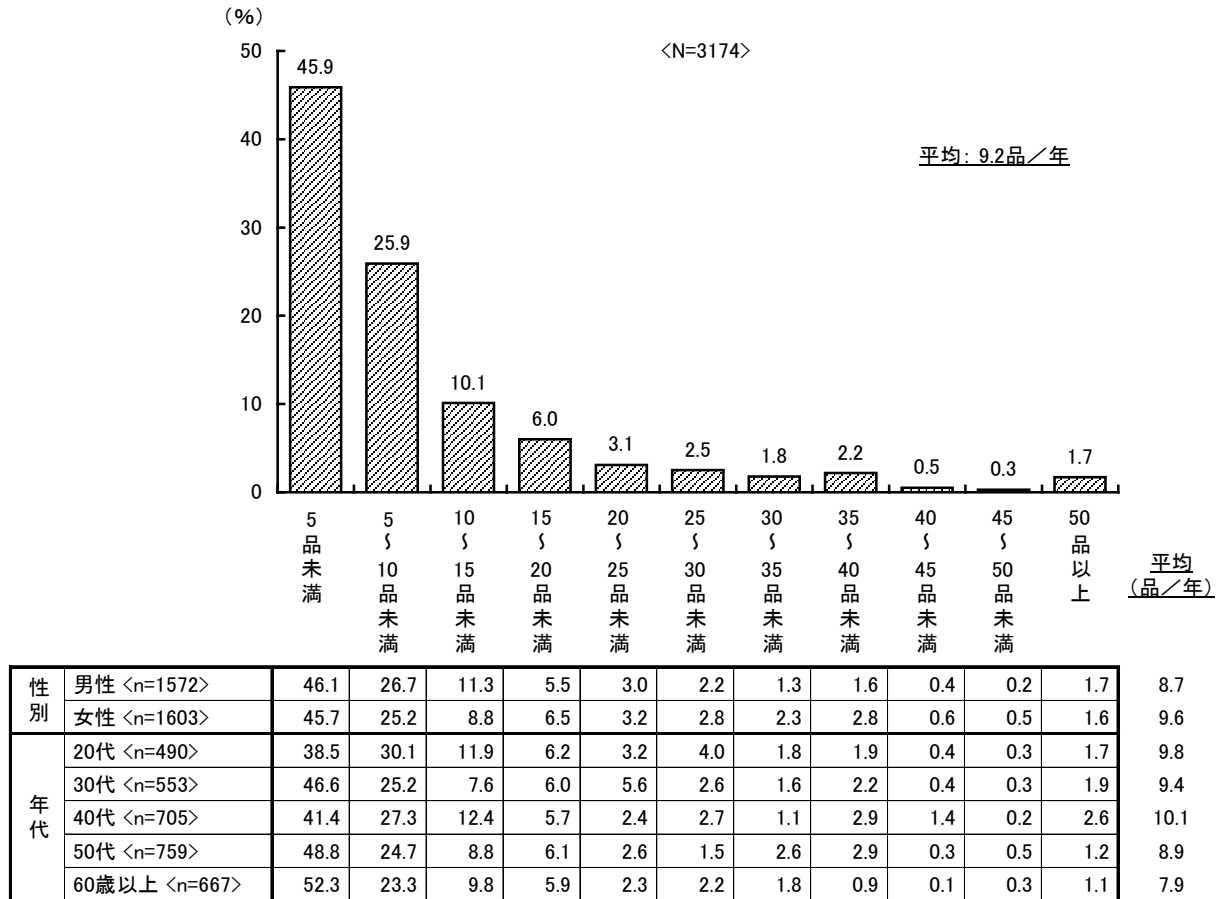
性別にみると、いずれも「5品未満」が多くなっていますが、《男性》（66.2%）よりも《女性》（72.5%）の方がやや高い割合で、《女性》の方が、期限が過ぎてしまうことは少ないようです。

年代別にみると、「5品未満」の割合は年代が上がるほど高くなる傾向が若干みられます。

2) 日常で食べる食料品で賞味（消費）期限が過ぎてしまったもの

「5 品未満」(45.9%)がやはり多いが(45.9%)、【1)災害用に備蓄している食料品】の同選択肢(69.4%)に比べると低い。以下、「5～10 品未満」(25.9%)、「10～15 品未満」(10.1%)などの順で、平均「9.2 品」。

図 25. 1年間でどのくらい、賞味（消費）期限が過ぎてしまった日常で食べる食料品があるか



次いで、【2) 日常で食べる食料品】について、1年間でどのくらい賞味（消費）期限が過ぎてしまったかをみると、「5 品未満」(45.9%)がやはり突出して多いものの、【1) 災害用に備蓄している食料品】(69.4%)と比べると低い割合です。一方、「5～10 品未満」(25.9%)、「10～15 品未満」(10.1%)などは高くなっており、【1) 災害用に備蓄している食料品】よりも賞味（消費）期限が過ぎてしまうことは多いようです。平均は「9.2 品」で、【1) 災害用に備蓄している食料品】(4.8 品)の2倍近い数となっています。

性別にみると、「10～15 品未満」など少ない品数の項目は総じて《男性》の方が、「15～20 品未満」など多い品数の項目は《女性》の方が、それぞれ少しずつ高くなっています。

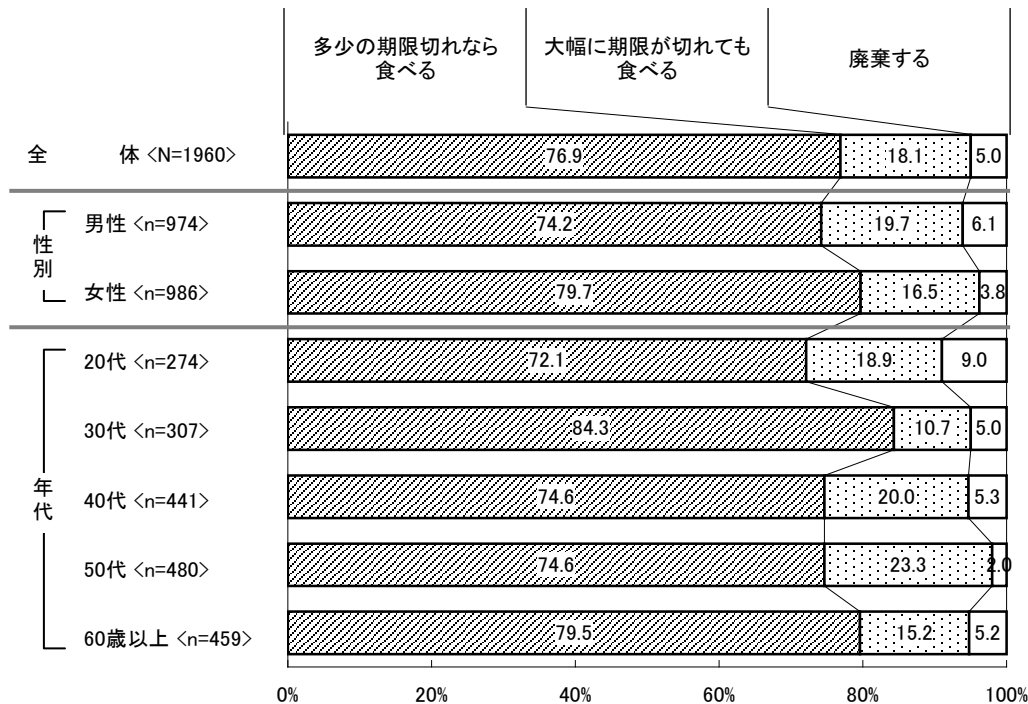
年代別にみると、「5 品未満」の割合は年代が上がるほど高く、「5～10 品未満」などは若い年代ほど高くなっており、若い年代ほど賞味（消費）期限が過ぎがちです。

4. 賞味（消費）期限が過ぎた食料品は主にどうするか

1) 災害用に備蓄している食料品で賞味（消費）期限が過ぎたものは主にどうするか

「多少の期限切れなら食べる」(76.9%)が多数を占め、そのほかでは「大幅に期限が切れても食べる」(18.1%)が主で、「廃棄する」という回答はわずか(5.0%)。

図 26. 賞味（消費）期限が過ぎた災害用に備蓄している食料品は主にどうするか



賞味（消費）期限が過ぎた食料品は主にどうするか、まず【1）災害用に備蓄している食料品】については、「多少の期限切れなら食べる」が7割台（76.9%）を占めています。そのほかでは、「大幅に期限が切れても食べる」（18.1%）が主で、「廃棄する」という回答はわずか（5.0%）です。

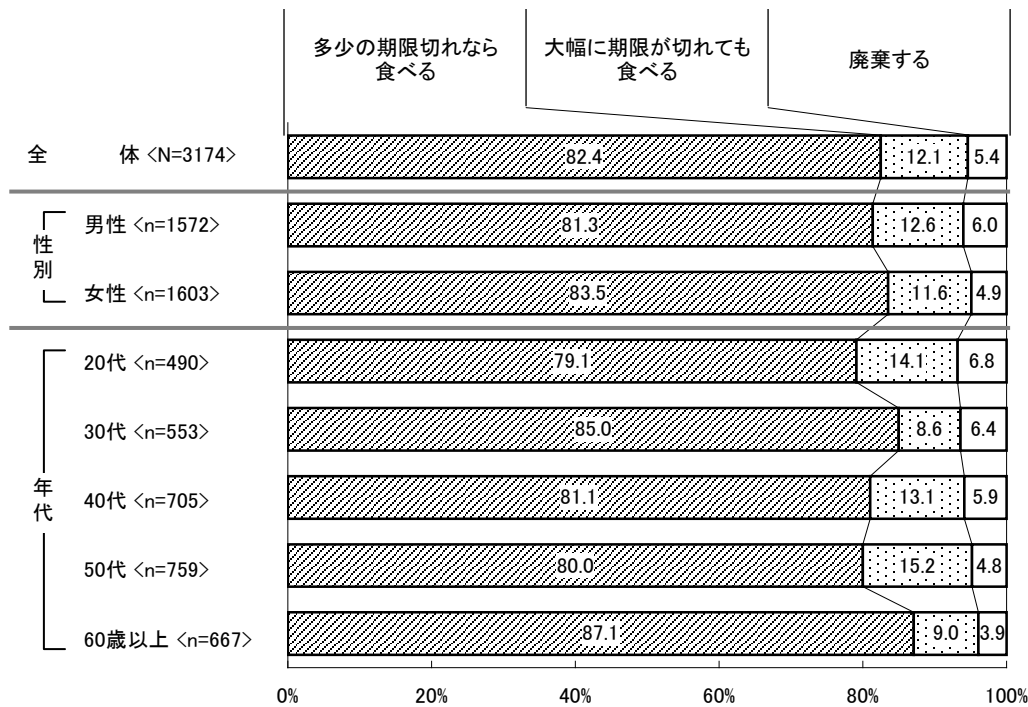
性別にみると、「多少の期限切れなら食べる」とする割合は《男性》（74.2%）よりも《女性》（79.7%）の方が、「大幅に期限が切れても食べる」は逆に《女性》（16.5%）よりも《男性》（19.7%）の方がやや多くなっており、《男性》の方があまり賞味期限にこだわらないようです。

年代別にみると、《30代》で「多少の期限切れなら食べる」（84.3%）が多く、「大幅に期限が切れても食べる」（10.7%）が少なくなっています。

2) 日常で食べる食料品で賞味（消費）期限が過ぎたものは主にどうするか

「多少の期限切れなら食べる」がさらに多い(82.4%)。

図 27. 賞味（消費）期限が過ぎた日常で食べる食料品は主にどうするか



次いで、【2）日常で食べる食料品】について、賞味（消費）期限が過ぎたものは主にどうするかをみると、「多少の期限切れなら食べる」が8割を超えており（82.4%）、【1）災害用に備蓄している食料品】（76.9%）のケースよりも高くなっています。そのほかでは「大幅に期限が切れても食べる」が1割強（12.1%）となっており、こちらは【1）災害用に備蓄している食料品】（18.1%）よりもやや少なめです。また、「廃棄する」はやはりごくわずか（5.4%）です。

性別ではあまり大きな差はありません。

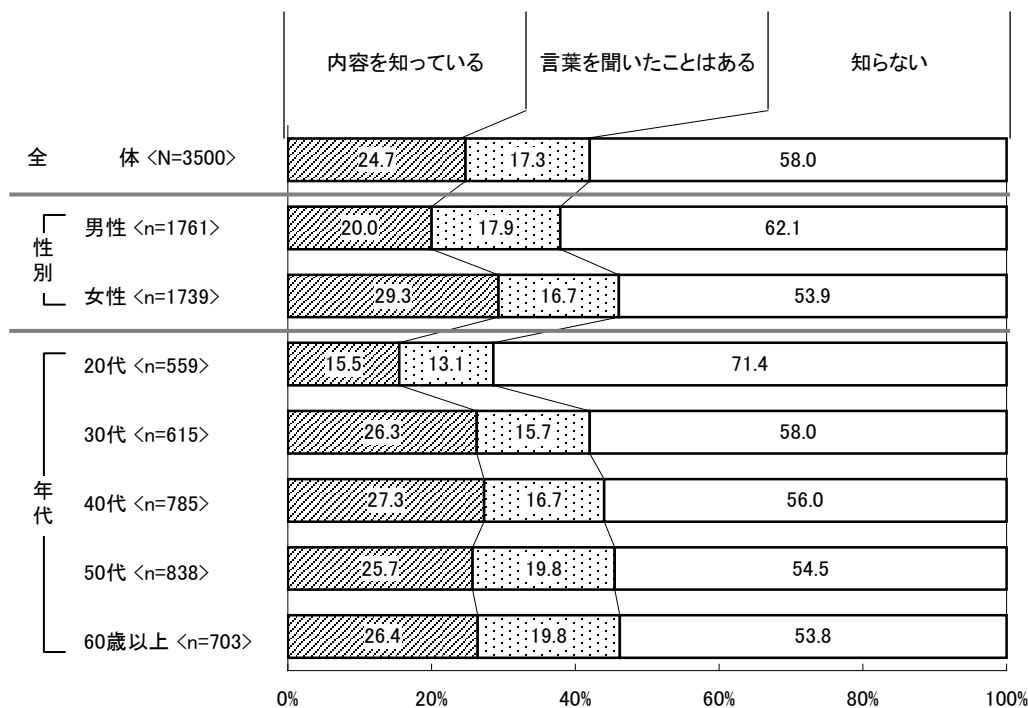
年代別でも目立った傾向の差はありません。

Ⅲ ローリングストックに対する意識と実態

1. 「ローリングストック」という考え方を知っているか

“知っている”のは4割強(42.0%)で、「知らない」(58.0%)の方が多い。

図 28. 「ローリングストック」という考え方を知っているか

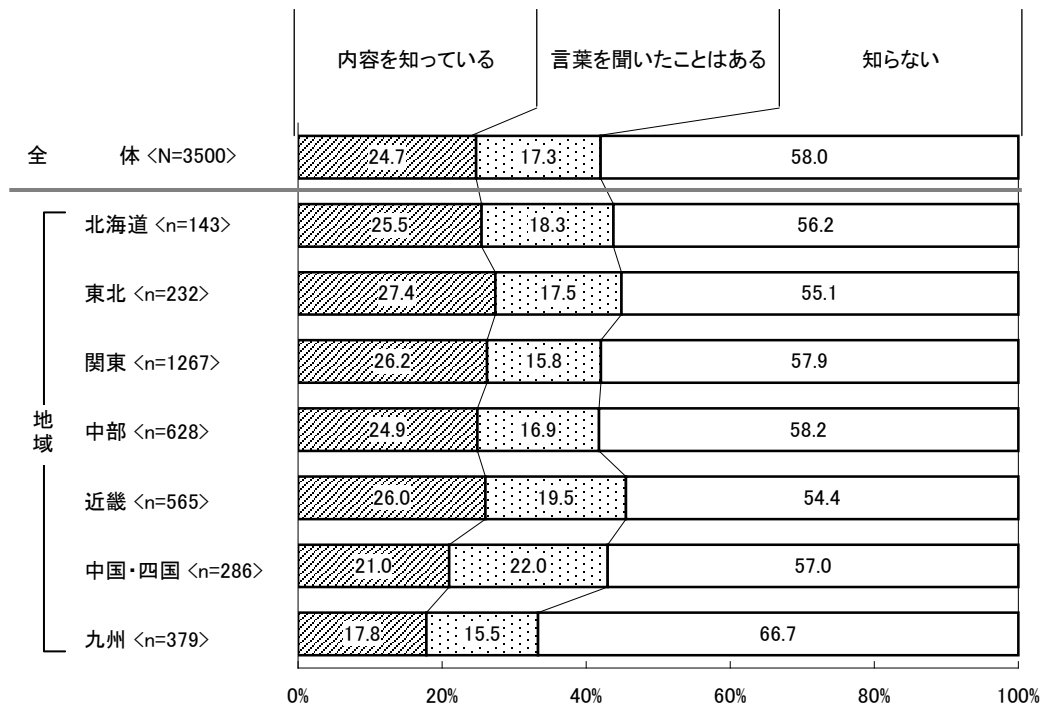


「ローリングストック」とは、普段から少し多めに食材品を買い置きし、賞味（消費）期限が近いものを日頃少しずつ消費しながら新鮮なもの、最新のものに入れ替えて更新していくことで、常に一定量の食料を家に備蓄しておくという考え方を指しますが、この「ローリングストック」という考え方を知っているかどうかをみると、「内容を知っている」（24.7%）、「言葉を聞いたことはある」（17.3%）がともに2割前後を占めており、合わせて“認知率”は4割強（42.0%）となっており、「知らない」（58.0%）という人の方が多くなっています。

性別にみると、「内容を知っている」（男性 20.0%、女性 29.3%）、「言葉を聞いたことはある」（同 17.9%、16.7%）ともに《女性》の方が多くなっており、合わせて“認知率”は《男性》（37.9%）よりも《女性》（46.1%）の方が10ポイント近く上回っています。

年代別にみると、“認知率”は《20代》では2割台（28.6%）にとどまり、他の年代の4割台に比べてかなり低くなっています。

図 29. 「ローリングストック」という考え方を知っているか（地域別）



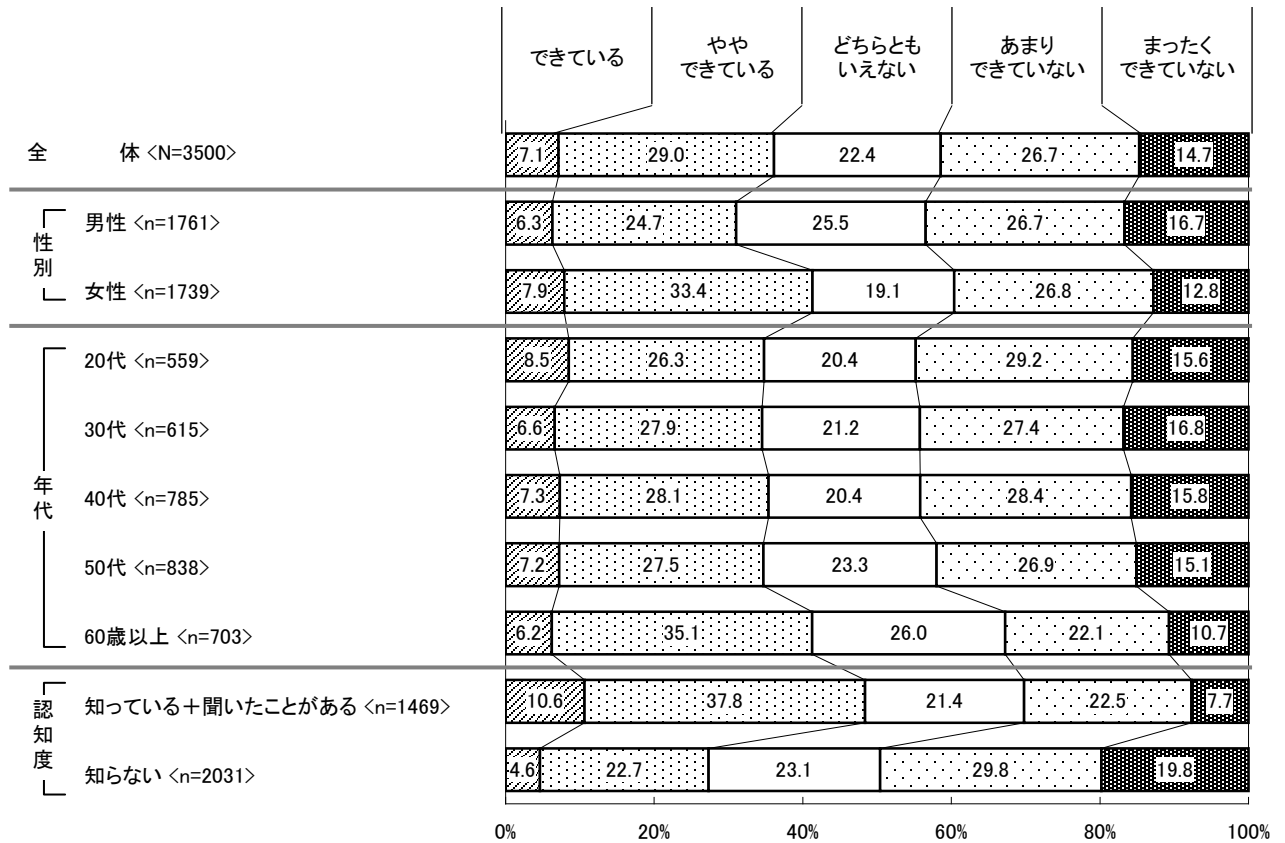
地域別にみると、認知率は《九州》で最も低く、「内容を知っている」と答えた割合は、他の地域が2割台なのに対し唯一1割台（17.8%）、「言葉を聞いたことはある」を合わせた“認知率”の割合も、他の地域がいずれも4割台なのに対し、唯一3割台（33.3%）となっています。

2. 自分は「ローリングストック」ができていると思うか

“できている”(36.1%)よりも“できていない”(41.5%)の方がやや多い。

●《男性》(31.0%)よりも《女性》(41.3%)の方が“できている”と回答する人が多い。

図 30. 自分は「ローリングストック」ができていると思うか



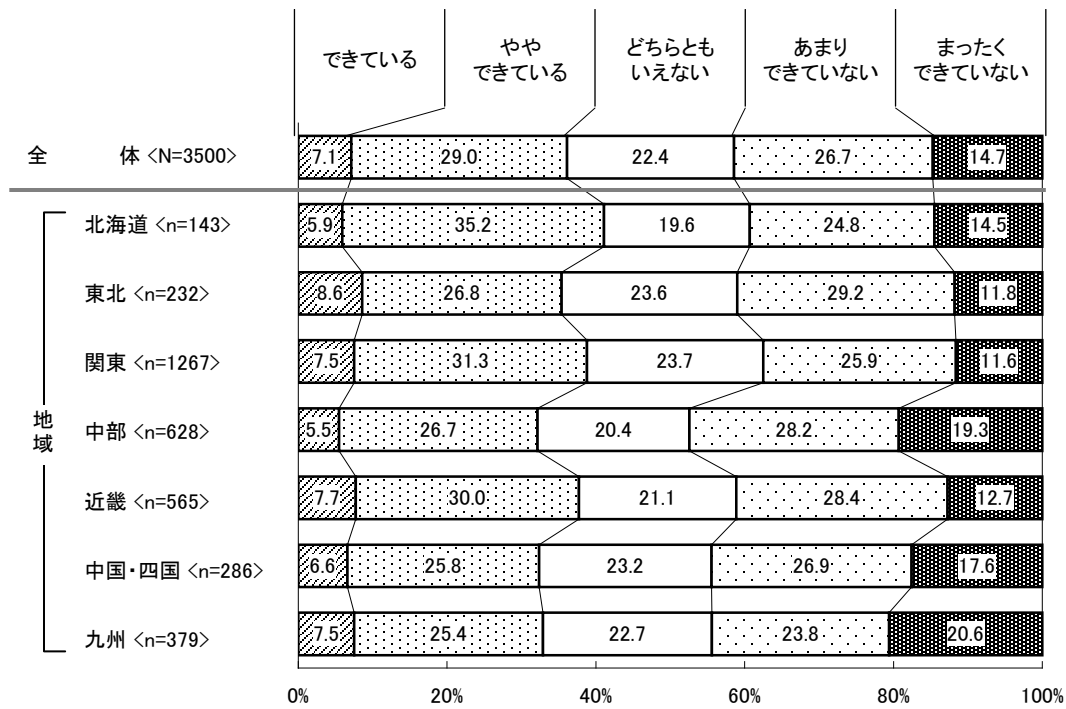
自分は「ローリングストック」ができていると思うかどうかをみると、「できている」(7.1%)、「ややできている」(29.0%)を合わせた“できている”(36.1%)よりも、「あまりできていない」(26.7%)、「まったくできていない」(14.7%)を合わせた“できていない”(41.5%)の方が少し多くなっています。

性別にみると、“できている”とする割合は、《男性》(31.0%)よりも《女性》(41.3%)の方が10ポイント以上高く、《女性》の方が“できている”と考えています。

年代別にみると、“できている”の割合は50代まではいずれも30%台であまり変わりませんが、《60歳以上》では4割を超えています(41.3%)。

ローリングストックの認知度別にみると、“できている”の割合は《知っている+聞いたことがある(“認知者”)》で半数近く(48.4%)に達し、《知らない》(27.3%)という人より20ポイント以上高くなっています。

図 31. 自分は「ローリングストック」ができていると思うか（地域別）

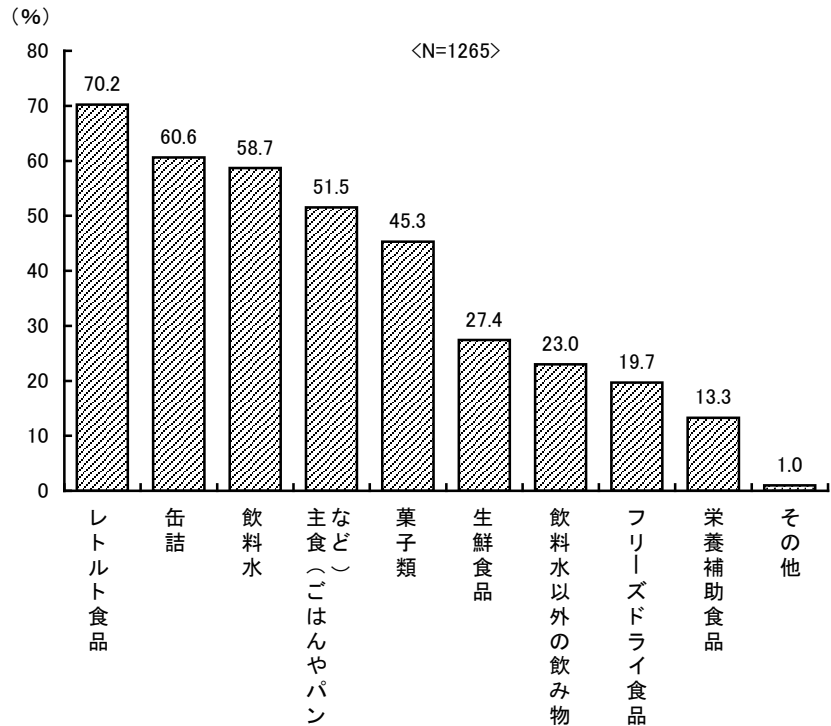


地域別にみると、“できている”の割合が最も高いのは《北海道》で、4割を超えており（41.1%）、低いのは《中部》（32.1%）、《中国・四国》（32.3%）、《九州》（32.9%）などで、3割台前半となっています。

3. どのような食料品を「ローリングストック」しているか

「レトルト食品」が最も多く(70.2%)、以下「缶詰」(60.6%)、「飲料水」(58.7%)、「主食(ごはんやパンなど)」(51.5%)、「菓子類」(45.3%)、「生鮮食品」(27.4%)、「飲料水以外の飲み物」(23.0%)などを「ローリングストック」している。

図 32. どのような食料品を「ローリングストック」しているか（複数回答）



性別	男性 <n=546>	67.4	52.4	59.2	52.2	36.8	27.9	21.1	15.5	13.5	1.0
	女性 <n=719>	72.3	66.9	58.4	50.9	51.8	27.1	24.5	22.9	13.1	1.0
年代	20代 <n=195>	55.9	36.2	48.8	47.6	30.5	44.2	13.8	14.2	11.1	0.6
	30代 <n=212>	63.9	52.2	57.3	50.5	47.4	31.3	20.5	21.7	15.8	0.8
	40代 <n=278>	75.6	61.6	60.2	45.0	48.4	22.1	24.4	20.3	16.2	0.2
	50代 <n=291>	75.6	65.5	62.1	50.2	48.2	20.6	25.4	17.8	12.1	2.6
	60歳以上 <n=290>	73.8	77.5	61.5	62.2	47.9	25.4	27.3	23.2	11.4	0.5
認知	知っている+聞いたことがある <n=711>	76.9	68.8	66.4	49.0	45.2	20.9	25.2	22.1	18.0	0.9
	知らない <n=554>	61.6	50.1	48.9	54.6	45.5	35.8	20.2	16.5	7.2	1.1

どのような食料品を「ローリングストック」しているかをみると、「レトルト食品」(70.2%)が最も多く、以下「缶詰」(60.6%)、「飲料水」(58.7%)、「主食(ごはんやパンなど)」(51.5%)、「菓子類」(45.3%)、「生鮮食品」(27.4%)、「飲料水以外の飲み物」(23.0%)などの順となっています。

性別にみると、総じて《女性》の方が高い割合の項目が多く、「缶詰」(男性52.4%、女性66.9%)、「菓子類」(同36.8%、51.8%)では10ポイント以上の差が生じています。

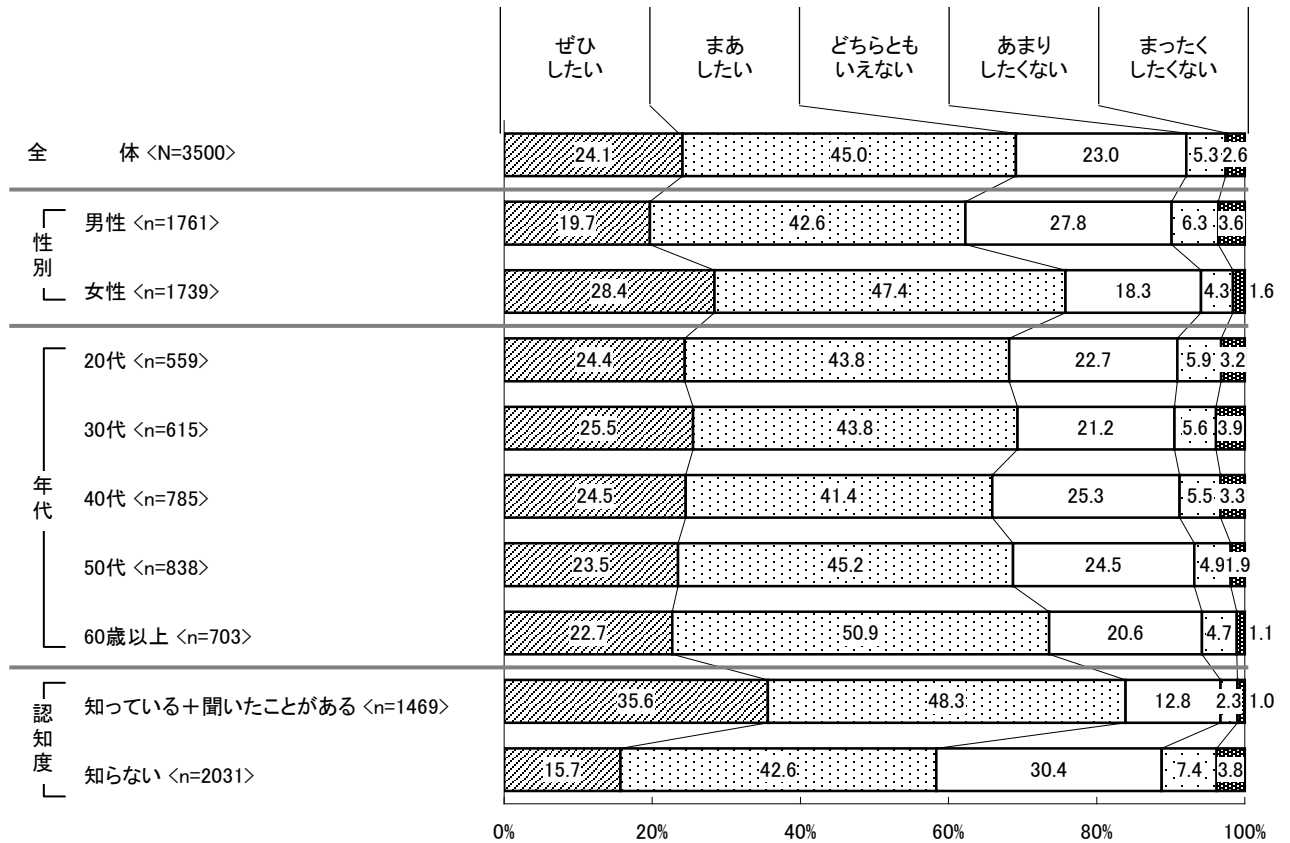
年代別にみると、ほとんどの項目で年代が上がるほど高い割合となっていますが、「生鮮食品」は逆に若い年代ほど高い割合となる傾向が顕著です。

ローリングストックの認知度別にみると、多くの項目で《知っている+聞いたことがある(“認知者”)》の方が高い割合で、認知していた人ほど多くの食料品をローリングストックしていますが、「生鮮食品」は逆に《認知者》(20.9%)よりも《知らない》(35.8%)と回答した人の方がかなり高い割合です。

4. 今後、「ローリングストック」をしたいと思うか

“したい”という回答がほぼ7割(69.1%)。
 ●“したい”の割合は《男性》(62.4%)よりも《女性》(75.8%)の方が高い。

図 33. 今後、「ローリングストック」をしたいと思うか



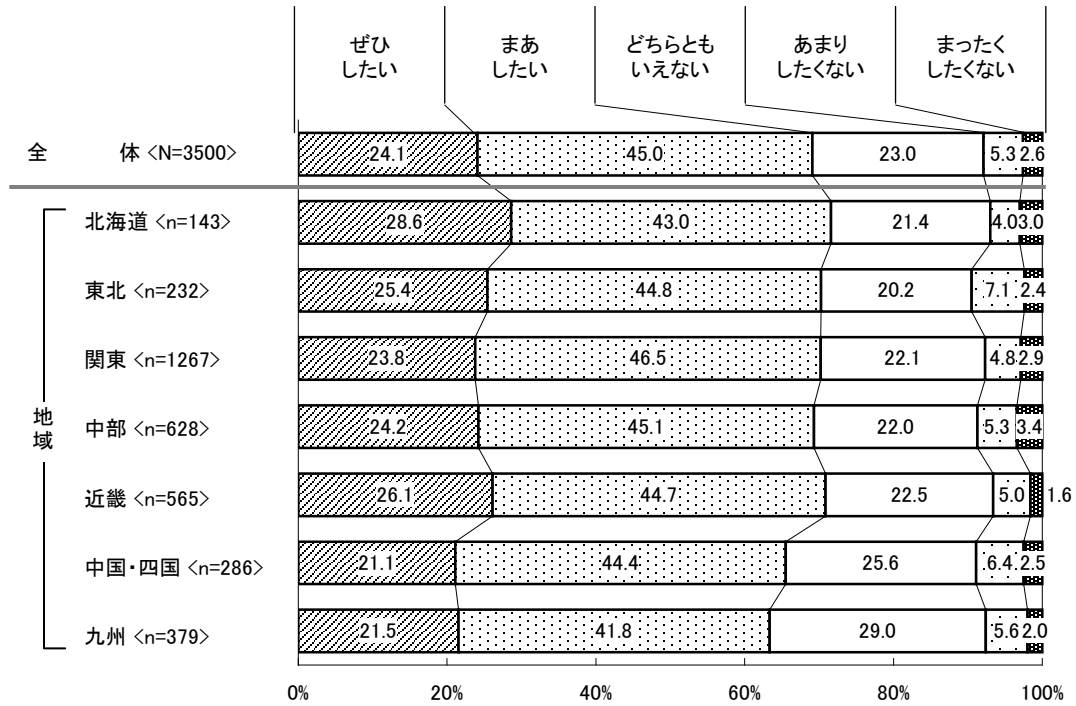
今後、「ローリングストック」をしたいと思うかどうかをみると、「ぜひしたい」が2割台（24.1%）、「まあしたい」が4割台（45.0%）を占め、合わせて“したい”という回答がほぼ7割（69.1%）に達しています。

性別にみると、“したい（ぜひ+まあ）”という割合は、《男性》（62.4%）よりも《女性》（75.8%）の方が10ポイント以上高くなっており、《女性》の方が今後に意欲を示しています。

年代別ではあまり大きな差はありませんが、《60歳以上》で“したい”とする割合（73.5%）が、他の年代の6割台に比べて高めです。

ローリングストックの認知度別にみると、“したい”の割合は、《知っている+聞いたことがある（“認知者”）》では8割を超えており（83.9%）、《知らない》（58.4%）を25ポイント以上上回っています。

図 34. 今後、「ローリングストック」をしたいと思うか（地域別）

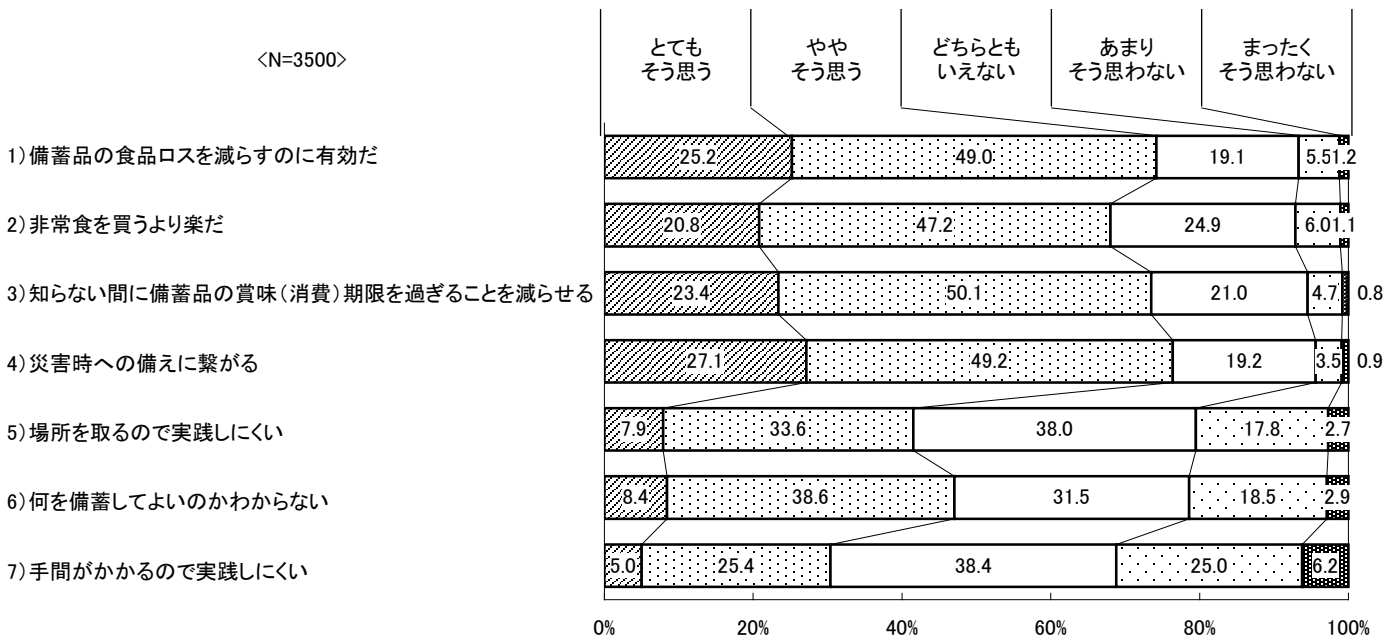


地域別にみると、「したい（ぜひ+まあ）」の割合は、《中国・四国》（65.5%）、《九州》（63.4%）などで低くなっています。

5. 「ローリングストック」についての考えについて、あてはまるもの

“そう思う”割合は、【1】備蓄品の食品ロスを減らすのに有効だ】(74.1%)、【2】非常食を買うより楽だ】(68.0%)、【3】知らない間に備蓄品の賞味(消費)期限を過ぎることを減らせる】(73.4%)、【4】災害時への備えに繋がる】(76.4%)といった肯定的な考え方の項目は7割前後と高いが、【5】場所を取るので実践しにくい】(41.5%)、【6】何を備蓄してよいのかわからない】(47.1%)の2項目は4割台、【7】手間がかかるので実践しにくい】では3割台(30.4%)で、否定的な考え方の項目の同意率は低い。

図 35. 「ローリングストック」についての考えについて、あてはまるもの



「ローリングストック」についての考えについて、【1】備蓄品の食品ロスを減らすのに有効だ】～【7】手間がかかるので実践しにくい】の7項目について、あてはまるものを選んでもらった結果をみると、“そう思う(とても+やや)”の割合は、【1】備蓄品の食品ロスを減らすのに有効だ】(74.1%)、【2】非常食を買うより楽だ】(68.0%)、【3】知らない間に備蓄品の賞味(消費)期限を過ぎることを減らせる】(73.4%)、【4】災害時への備えに繋がる】(76.4%)といった肯定的な考え方の項目で7割前後の同意率となっています。

否定的な考え方の項目としては、【5】場所を取るので実践しにくい】(41.5%)、【6】何を備蓄してよいのかわからない】(47.1%)の2項目は“そう思う”が4割台で、それでも“そう思わない(あまり+まったく)”よりも多くなっています。【7】手間がかかるので実践しにくい】では“そう思う”が3割(30.4%)とさらに低く、“そう思わない(あまり+まったく)”(31.2%)とほぼ同率となっています。

表 2. 「ローリングストック」についての考えについて、あてはまるもの（属性別“そう思う”の割合（%））

		(%)							
		サンプル数	1) 備のに有効だ 蓄品の食品ロス を減らす	2) 非常食を買うより 楽だ	3) を減らせる （消費）期間に 備蓄品の賞味 期限を過ぎること を知らない間に 備蓄品の賞味 期限を過ぎること	4) 災害時への備えに 繋がる	5) 場い 所を取るの ので実践しにく い	6) 何らない を備蓄してよ いのかわか らない	7) 手く 間い がかか るので実 践しに くい
全 体		3500	74.1	68.0	73.4	76.4	41.5	47.1	30.4
性別	男性	1761	69.5	62.1	70.4	69.9	40.5	44.2	33.1
	女性	1739	78.9	73.9	76.5	82.9	42.5	50.0	27.8
年代	20代	559	71.3	64.0	74.6	75.6	54.3	56.4	41.1
	30代	615	70.3	65.7	69.6	73.6	44.3	52.9	32.3
	40代	785	70.3	63.9	69.6	73.5	42.1	46.0	30.2
	50代	838	77.9	71.2	75.3	77.5	38.1	43.1	27.8
	60歳以上	703	79.6	73.8	77.9	81.3	32.3	40.4	23.8
認知	知っている+聞いたことがある	1469	85.3	77.9	83.5	86.9	40.9	42.5	27.9
	知らない	2031	66.1	60.8	66.2	68.8	41.9	50.3	32.3
地域	北海道	143	75.2	67.2	73.5	75.3	40.0	42.5	27.0
	東北	232	76.2	68.4	75.3	78.1	40.9	42.2	28.4
	関東	1267	75.3	69.9	74.5	75.9	41.6	48.3	29.3
	中部	628	76.5	66.2	74.7	78.1	41.5	46.6	34.7
	近畿	565	71.2	68.5	72.6	76.2	40.9	46.9	29.7
	中国・四国	286	71.4	66.7	69.9	76.2	42.3	47.4	31.1
	九州	379	71.1	64.5	70.9	75.0	42.5	48.5	30.3

属性別に“そう思う（とても+やや）”の割合をみると、まず性別では、1）～4）までの肯定的な考え方の項目では《女性》の方がかなり高い割合になっています。

年代別にみると、1）～4）までの肯定的な考え方の項目では年代が上がるほど高く、逆に5）～7）の否定的な考え方の項目は若い年代ほど高い割合となっており、年代が上がるほど「ローリングストック」に対して肯定的な印象を持っています。

地域別にみても、あまり大きな差はみられません。